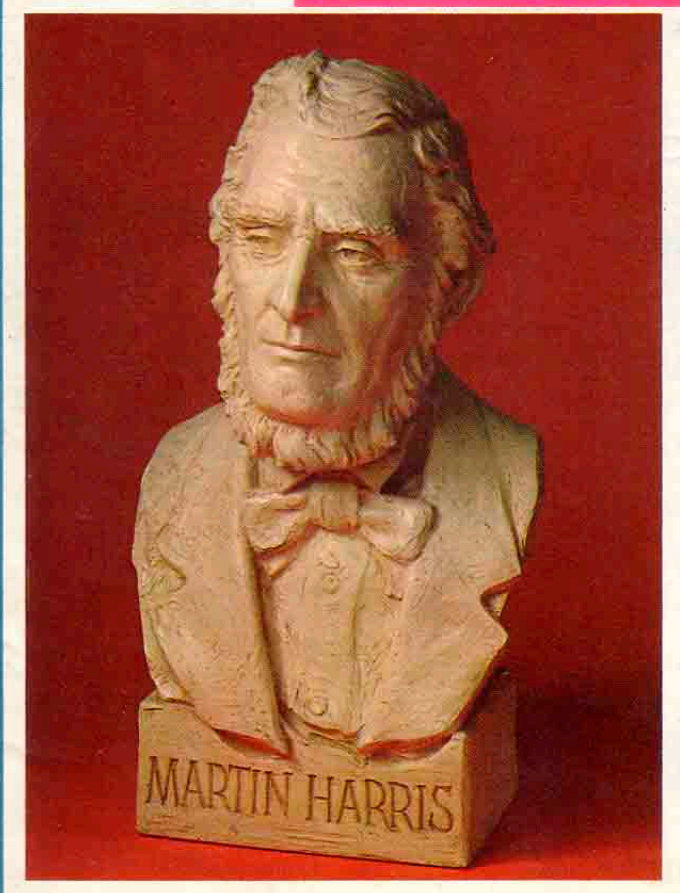


聖徒の道

1969

1





心の糧

十二使徒評議員

トーマス S. モンソン

予言者サムエルを通して主により聖なる任命を受けたダビデを、羊飼いの少年として思い起す人は多い。しかし、私はダビデについては他の全ての者がためらうような勝目のない争いに出会っても、勇気と信仰を持っていた義なる若者と考えたい。そしてダビデは生まれて初めてあの巨人、ガテのゴリアテと戦うことにより、イスラエルの名をとりもどした。

我々が自身の生活を熟視して、自分の勇気と信仰をはかってみることもよい。我々の生活にゴリアテはいないか。自身の心の中にそれが存在していないか。あなたとあなたの望んでいる幸せの間に、ゴリアテが立ちだかっているか。人間のゴリアテの一つは、おそらくタバコやアルコールの押えられない誘惑である。もう一つのゴリアテは、貧しい人々や、しいたげられた人々を鼻であしらう、しまつに負えない舌や、きままな性向である。せん望、どん欲、恐れ、怠惰、疑い悪習、高慢、色欲、利己主義、落胆などはみなゴリアテとなる。

我々が遭遇する身と霊の永遠の戦いは、少なくともダビデのそれ以上のものである。

敵はそれに劣らず手ごわく、全能の神の助力もまたそれに負けない。我々の行ないはどうなるであろうか。古のダビデと同様に、「我々の目的は正しい」。我々は失敗したり、誘惑のわなに陥いるために地上に来たのではなく、成功するために来たのである。我々の巨人、我々のゴリアテを打ち倒さねばならない。

も く じ

予言者のことば	
最大の成功を得るには……………	大管長 デビド O. マッケイ…………… 113
弾幕を縫う一筋の銀の糸……………	ゴードン B. ヒンクレイ…………… 115
モルモン経四人の見証者の証詞……………	118
管理監督会のページ	
律法を守ること……………	ジョン H. バンデンバーグ…………… 119
わが家の初子……………	アミイ・モルヤード・ジェンセン…………… 121
扶助協会	
新年に望むことは……………	扶助協会中央管理会長会…………… 125
台所でびっくりしたこと……………	ヘレン・ヒンクレイ・ジョーンズ…………… 126
日曜学校	
生活を変える教え方……………	クラーク D. ウェブ…………… 127
MIA	
MIA スポーツプログラム……………	129
忠実であれ……………	スティーブン R. コーベイ…………… 131
若人のページ	
サマリヤ人……………	スザンヌ・アイストーン…………… 133
愛の働き……………	134
私たちの改宗……………	エドワード・ブライン…………… 135
どれだけ払いたいのですか？……………	メルビン L. プレイン…………… 136
大会説教……………	137
新年のあいさつ……………	149
ローカル・ニュース……………	150
結婚とは結婚式以上のものである……………	リチャード L. エバンズ…裏表紙
子供のページ	
友だちをつくったソロバン……………	32
うみのふしぎ……………	35
ちょうちょどろぼうのひみつ……………	37

表紙の説明

今月の表紙はモルモン経の四人の見証者。上段右から、オリヴァ・カウドリ、デビド・ホイットマー、マーテン・ハリス、予言者の妻エマ・スミス。エマ・スミスの彫刻はエザイン・エバンス作、残りはフロウトン作（本号モルモン経四人の見証者の証詞参照）



最大の成功を得るには

大管長 デビッド O. マッケイ

八 福の教えを含むあのすばらしい山上の垂訓の中で、救い主は言われた。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6 : 33)「これらのもの」というのを、その章の先の節に述べられている諸徳であると言う注釈者もあるが、また他の注釈者はより賢明にそれを、すべての主の言葉と同様に、人につけるあらゆるものであると述べている。

若人への勧め

この新年にあたり、私は、救い主が生存中に述べられた二、三の言葉を、神の子供たち個人個人の生活に当てはめてみたい。イエスは自分に従うわずかな人々にだけでなく、全人類に語りかけたのである。従って私は、まず神の国と神の義とを求めよという勧めは、あらゆる所に住む若い人々に当てはまると考えるのである。信仰をもってそれらを確認するなら、その他必要にして有益なものは全て添えて与えられるであろう。私はこの偉大な勧めにより、ハンフリー・デーヴィ卿がかつて書いた言葉を思い出す。

「あらゆるものの中から一度に最も喜ばしい、最も有益なものを選ぶことができるとしたら、私は他のどんな祝福よりも確固たる宗教的信条を選ぶであろう。」

私がこれを引用したのは、「最も喜ばしいもの」と「有益なもの」という二つの

言葉を用いているからである。

世のあまりに多くの人々が、神の国を求めることに反する方法で有益なものを得ようとしている。言いかえると、生活は二つの大きな面、物質的な面と霊的な面とに分かれている。

もしあなたが目を見開いて、周囲を見まわすならば、霊的な世界よりもむしろ物質的な世界において喜びを求めていることに気がつくであろう。私は長年の経験により、特に若い人がたに心から申しあげる。この世の有益なもの、楽しみ喜び、幸せは、まず神の国を求めよというキリストの勧めに従うことによりもたらされるのである。

成功の秘訣

この新年に私があなたがたに対して最も心に感じている望みをあらわすとしたら、「最大の成功と心の満足を得たいなら、イエス・キリストの福音を毎日実践せよ」と若い人々、あらゆる所に住む人々に申しあげたい。私は何の変更もためらいもなくこの言葉を述べる。私が示した結果がどうなるかを知っている。それらは若い人々をより従順な娘、息子としてより賢い学生、より望ましい仲間、より謙遜な友人、社会のより有益なメンバー、未来の家庭におけるより価値ある父母にしてくれる。また地上での創造の目的をよりよく果たさせてくれる。

学生であるあなたがたに申しあげたいのは、職業の選択により熟達し、他人に対してより良い影響を与え、役立つ者となり、個人的な喜びをもっと持ちなさいということである。選んだ職業がなんであるうとも、そこにおいてより優れた人になりなさい。

人はその思いに従って生きる

私は学生諸君に卓越することを強調しているけれども、あなたがたが選んだ職業において卓越すること以上に、より高い何かがある。それは人をつくるものであり、人類に奉仕する男性や愛する人々に奉仕する愛に満ちた美しい婦人をつくり上げるものである。それは人が実際に心に思っていることである。人は生活を経るにつれてそれを心に抱く、そしてそれは教室で、ダンスホールで、社会で、あらゆる活動において、家庭、教会、職場において人を導くものである。人は実際に考えていることに従って生きるものである。世の中の人々を変えるには、彼らの考えることを変えなければならない。人は理想を越えたものになることはない。理想に達しないことはあっても、越えることは決してない。

パウロは別な方法でそれを述べている。

「……御霊によって歩きなさい、そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。なぜなら、肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反するからである。こうして二つのものは互いに相さからい、その結果、あなた

がたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。」(ガラテヤ5:16~17)

非常に意味のある言葉である。それからパウロは肉の働きについてあげている。

「……姦淫、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、殺人、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言うておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。」(ガラテヤ5:19~21)

「まず神の国と神の義とを求めよ……」そしてそれは勇氣と思慮と御霊の実を結ぶことによりなし遂げられる。御霊の実とは「……愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。」(ガラテヤ5:22~25)

森の中の確かな導き

最近私が読んだものに次のような記事があった。一人の森番が、木に結ばれた一本の糸が深い森の奥へ続いているのを発見した。彼はこの糸をたどって行ってその意味を調べようと思った。しげみを越え、垂れ下った枝の間を通過して、できるだけ早く進んで行った。ついに手により糸の球を持った猟師に出会った。その糸は何のためか尋ねると、「猟師は答えた。「私はこのような山の中で道に迷った人々について聞いたことがあります。そこで私はもし万一道に迷った時のために、帰り道がわかる方法を備えておこうと決心したのです。」

我々はみな多かれ少なかれ人生の深い森の中を進んでいる。道に迷う者もあれば、一方賢明にも綱を持っている者もいる。彼らはたとえ道に迷ってしまっても、人間集団の迷路に迷い込んでしまおうとしても、帰る道を見出すことができるのである。その綱こそイエス・キリストの福音とその理想である。幸福、安全、知性よりも高い特性が、その綱をしっかりと握っていることにより、もたらされる。正直、高德、貞潔などの霊的な理想を真心から求めなさい。すなわちそれは人生の綱であり、日常生活においてそれらの理想に従う時に、あなたの心に幸せと平安をもたらすのである。私はあなたがそうする時に、より一層幸せになることを知っている。それは単なる信条や勧告ではない。救い主により述べられた理想に一致することによって、すべての喜びと幸せが自分のものとなるのである。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

弾幕を縫う一筋の銀の糸



十二使徒評議員

ゴードン B. ヒンクレー

愛 する兄弟姉妹、今朝のマッケイ大管長のよみがえりたもうた主に対する証詞を聞いて、私は本当に心をうたれました。いかなる人も決して私たちの予言者のあの証詞を忘れないよう、希望してやみません。もし主が私を導きたもうならば、その導きのままにお話ししたいと思います。以前に、ベトナム戦争についてこの壇からお話ししたことがあります。お許しを得てこのことについて再び、少し話させていただきたいと思います。戦場にご子息を送っておられる何千という人々は、いつもこの問題を心に抱いておいでだと思ふからであります。皆さまは戦場におられるご子息の安否をいつも気づかい祈っていらっしゃることでしょう。他国で行なわれているとはいえ、私たちはこの戦争について深く考えなければなりません。私は幾度となくベトナムを訪れましたが、まだ一度も訪れたことのない人でも、日々に平和を祈ることなくあの国の恐ろしい悲惨を思わない人はいないでしょう。この戦争は他の戦争と同じく、悪と口に表わしえない悲劇に満ちています。それらはひとつひとつつみな、おろそかにできない問題であります。しかし悪と悲劇が満ちているその中でも、私は、暗黒と血なま臭い弾幕を縫う一筋の銀の糸を見出すのです。このサタンの悪に満ちた計らいの中にも、良いものをとろうとしておられる主の指を見るのです。アジアにおける他の争いと同じく、この戦いの中からも主の計画が着実に延びていくのを私は見ます。少し前に私はサイゴンに行きました。私たちは小型タクシーに乗って、泥んこ道をサイゴン支部の集会所に向かいました。夜で

町は停電でした。珍しいことではありませんでしたが、豪雨をついて暗やみの中をゆくのは厳しいものでした。集会所へ通じる狭い道は流れる水が小川のようにでしたが、真中の少し高くなっている所をまわって行くと、傘を手にしたやせて小柄な人がこちらに近づいて来るようすでした。私たちがタクシーのドアをあけると、そこにはベトナム人で最初に大神権を受けた末日聖徒イエス・キリスト教会の長老であるミン兄弟が立っていました。ミン兄弟は入口のポーチに立ちながら、モルモン経をベトナム語に翻訳させてほしいと私たちに頼みました。私は彼に「いったいどうして、そんな時間ができるのですか」と聞きました。彼は変化のない長時間の仕事をしていました。私の質問に答えて、必ずいつかこの福音がこの地の人々に伝えられるということ、そして人々にモルモン経の証詞が必要になるということを述べて、どうにかして時間をつくりますと言いました。彼は英語を理解できてモルモン経を読んだのです。彼は、自分がモルモン経から靈感を受けたように、他の人々もそれを自分たちの言葉で読む時に同じ靈感を受けるはずだと知っていたのです。

ミン兄弟と同じように私も、いつの日かこの回復された福音の教えに心を開く人々がこの国にもますますふえてゆくことを確信しております。その日がいつ訪れるかを私は知りませんが、その日が必ずや

来ることをよく知っております。そして軍隊の責任を負ってかの地にいる皆さまのご子息方もその日のために働いておられることを知っております。彼らがいなければ、その日もずっと遠いものであろうと思います。

導きによる素晴らしい経験についてお話ししたいと思います。1966年10月30日の日曜日に、サイゴン市中心にあるカラベルホテルの屋上に、200人余りの教会員が集まりました。私たちはそこで「みたま」に満ちた集会を持つことができ、マリオン D. ハンクス長老、ケイス E. ガーナー伝道部長その他の方々の話を聞きました。その集会の終り頃話をしている最中に私は導きを感じ、すでにマッケイ大管長から与えられていた権能のもとに、福音が宣べ伝えられるようこの国を奉献しようと思いました。

奉献の祈りは公けの集会で捧げられたものですからここでその時に「みたま」に導かれて述べた言葉の一部を繰り返すことも許されると思います。

「永遠の父なる神よ、我らは今日こうして、争いと破壊と戦火に引き裂かれた地、南ベトナムの地で御前にへりくだって集いました。我らは御子にして主、平和の君にましますイエス・キリストの御名によって集まり、汝の特別な祝福を願いたてまつる……。

我らは、アジアの他の地にあって、サタンの働きを変えて汝の子らの善を祝福と為したもうた汝の御業を見てまいりました。そして今、この地の上にも同様に汝の「みたま」をそそぎたもうよう願いたてまつる。我らの父、我らの神なる汝に乞い願いたてまつる。互いに争う国々の指導者の心に、理解の精神をつかわし、全人類が汝の子らであり兄弟であることを知らしめたもうように、また双方に、この地をふみにじる激しい戦いを終えようとの望みを植えつけ、自由と正義を進め、自由を愛する人々の自由意志を保証する終結を願うように、彼らの心に御手を触れたまえ。

聖なる父よ、汝の神権を持つ数多くの善良な人々が戦争にともなってこの地にやってまいりました。彼らは、ここでこの地に汝の聖なる御業を打ち建てようとしております。彼らは御子の福音を仲間の人

々にわかち、アメリカ人やベトナムの人々にも伝えております。そのようにして多くの人々がバプテスマを受けていることを感謝したてまつる。この時に汝が油そそぎこの時代の御業の頭として召したもうた予言者より受けた権能のもと、この国を奉献して汝の祝福を願いたてまつる。

聖なる神権と授けられている聖なる使徒職の権能によって、南ベトナムの地を、予言者ジョセフ・ミスにより回復された主イエス・キリストの福音の説かれる地として御前に奉献したてまつる。父よ、今より先、人々と国の指導者の心に触れる聖霊がさらにこの地に恵まれますように。彼らが真理の教えに心を開き、御子の福音を受け入れますように、その祝福をいただく人々が、汝からたまわって彼らの持つ、偉大なる賜と力と権威を他の人々に分かち与えようとの決意を心に新たにできますように…。

宣教師をつかわす道を開きたまえ。人々の生活に偉大にして永遠なる善をもたらす彼らの働きを実り豊かなものとなしたまえ。

この聖なる日の終りにあたって、我らは御前に頭をたれて汝の祝福を乞い願い、心より汝が我らに為したもう善を感謝したてまつる。贖い主、主なるイエス・キリストの御名によって祈りたてまつる。アーメン」

かの地にはいまだに宣教師が派遣されておられません。いつ宣教師をつかわすことができるかもわかっておりません。しかし私はその日が来ることを確信しております。こうしているうちにも、正式な宣教師によらず市民や軍人の口から、求めて来る人々に福音がわかち与えられております。タイに教会が正式に建てられた場合と同じように、各地において、そのような人々の努力を通して教会の業が打ち建てられています。戦争にともなってその地へ熱心な教会員が送られなかったならば、それは不可能なことだったでしょう。悪のさなかにあっても、主はそれらの人々の行なう善を祝福なさいます。非常な障害のただ中にあっても、彼らの信仰ゆえに主は彼らを祝福なさいます。主は、価値ある福音の賜を分かち与えようという彼らの望みによって、彼らを祝福なさいます。

世界の各地で礼拝の家を建設するために払う人々の犠牲を見て、私は深い感銘を与えられてまいりました。しかしここ二年ほどの間に軍人として駐在しているベトナム地区の管理長老のもとでの働きほど深く心打たれたことはかつてありませんでした。彼はすでに什分の一をおさめている兄弟たちに、軍から受ける手当を建築資金にしようと提案したのです。ある日曜日にその日だけでサイゴン支部の人たちから3,000ドル（およそ108万円）以上集まり、一ヶ月のうちにベトナム全土から18,000ドル（およそ648万円）以上も集められたのです。戦いの危険の中であって平和のために持てるものを差し出したこれらの軍人のように信仰をよく表わしている人々は、世界のどこにいますでしょうか。彼らはそのお金を自分を見ることも用いることもない建物、しかしいつの日かその地の人々に祝福をもたらす建物の建設のために捧げたのです。主は、その心に対して彼らを祝福なさいます。主の平安によって、今戦火のもと暗やみの中で静かに輝やいている信仰を息子の心に植えつけた父親、母親の心が慰められますように。

徴兵されたために宣教師として働くことのできないご子息を持って悲しんでおられる両親の皆さまが、彼らが模範をもって宣教のわざによく携わっているということと、彼らが暗黒のとばりをひきあげていつの日か福音が教えられるための助けを為していることを知って、いくばくかの慰めを得られますように。

私は初めて今週、ブリガム・ヤングの記した興味深い言葉を読みました。ヤング大管長はこう言っています。

「東インド諸島（東南アジアの意味とうけとりま）の人々およびあらゆる島々、大陸に住む人々が高きも低きも無知なる者も知恵ある者も永遠の生命の御言葉を受け入れて、神の御子の永遠の神権の力を与えられるのを目の当たりに知る時に、私は大いなる喜びに満たされん。……」（説教集第8巻）

この壇に立って、私は決して戦争を弁護するものではありません。簡単な答えというものはなく、問題は理解できないほどに入りこんでいます。私が申し上げたいのはあの銀の糸のことであります。暗黒の

弾幕を縫って、小さくはあっても希望の光を放って輝く銀の糸に皆さまが心をとめられますように。今はささやかなものであっても、神の奇しき業のうちに強められて、いつの日かかの地に住む御父の子供の多くに善をもたらす大いなる業として花開くその礎に心を向けて下さい。私はそのことが確かであると知っております。

アジアの伝統ある国々、韓国、台湾、沖縄、フィリピン、そして日本には、あわせて二万五千人以上の末日聖徒がおります。それらの国に主の御業が進展してきたその跡を見て、私はこれから何が起こるかがわかるように思うのです。これらの素晴らしい人々は、神権を持った市民や軍人の生活という模範によって偉大な御業のために築かれた基礎の上に、戦争の暗い日々とその後の苦難の時期にまかれた種の豊かな結実なのです。

ベトナムにいる一人の兄弟から受けとった手紙から読んでみたいと思います。

「先日プーベイという所で、私は若い教会員がペーパーバックの『奇しきみわざ』を読んでいるのを見ました。（教会について尋ねられた時に教えることができるように読んでいたのでしょうか）本は汚れていました。けれども彼はいっしょうけんめいに読んでいたのでそのよごれが目に入りませんでした」

たった今、危険なジャングルのパトロールから帰って、泥でよごれた服のまま福音を学ぶ若い歩兵の姿を思い描く時、私の心には別の二つの様子が浮かびます。彼が生まれ育った家庭でその安全をいつも祈る人々、そして、平和がもどって戦争の黒雲がはらわれ、今かの地で努めているそれらの兄弟たちが築いた基礎の上に教会の集会の開かれているようすが……。

その日はやってまいります。私はそのことを確信しております。

主がアジアに住む信仰深い兄弟姉妹を祝福したもうよう、また、この暗黒の日を越えて、彼らの働きによって末日の王国がかの地に住む多くの人々を囲む時を私たちに恵みたもうよう、イエス・キリストの御名によりへりくだってお祈りいたします。

アーメン。

モルモン経四人の見証者の証詞

モルモン経は薄い金版に書かれ予言者ジョセフ・スミスに手渡されるまで土の中に隠されていました。この書物が神の力で与えられ、神の靈感によって翻訳されたものであることを知った4人の人々の証詞がここにあります。

エマ：予言者ジョセフ・スミスの妻

「私はモルモン経が神聖な真実なものであることを知っています。そして少しの疑いも持っておりません。誰れも、もし靈感を受けなかったらその原稿の書面を書き取ることが出来なかったと私は信じています。なぜなら、筆記者として働いている時に、あなたのお父さん（ジョセフ・スミスⅡ）は私に何時間も口述して筆記させました。そして食事の後や、仕事を中断したりしたあとに、残っている部分の原稿を見直したり読ませたりしないうちに直ちに翻訳を始めました。このようなことはこの仕事に携っている間は日常茶飯事のことでした。学識のある人でさえもこのようなことは出来ないと思います。そしてまたジョセフのように学問をうけていない人にとって、それは全く不可能なことでした。」（ジョセフ・スミスⅢ「エマ姉妹の最後の証詞」 Saints' Advocate, Vol. 2 October 1879, P. 52）



マーテン・ハリス

「私はモルモン経が真実なものであることを知っています……その金版が神の賜と力によって翻訳されたことを知っています。なぜなら神の声が私達に言明されたからです。ですからその仕事が真実であると確かにわかります。かつてジョセフと話していたとき、私はひざの上にその金版を一時間半も持っていました、そうです確かに私は持っていたのです。そしてジョセフ・スミスが翻訳した金版の多くの部分を私は自分の手で一枚一枚ふれてみました」（「ミレニアルスター」 Millennial Star, Vol. 21 P. 545）



オリヴァ・カウドリー

「予言者ジョセフ・スミスが神の賜と力によってモルモン経を翻訳している時に、私はジョセフの口から語られたとおりに完全なモルモン経（数ページをのぞいて）を私自身で書きました。……モルモン経には永遠の福音が含まれています。それは予言の成就として、人の子らに現われました。」（「ミレニアルスター」 Millennial Star, Vol. 21 P. 544）



デビッド・ホイットマー

「1829年6月の下旬に、ジョセフとオリヴァ・カウドリーと私は一緒におりました。その時天使が私達に金版を示しました……。これは次の様に示されました。「太陽の光よりももっと輝かしい光」で私達が覆われた時にジョセフとオリヴァと私は丸太の上に腰かけていました。その光の真中にたくさんの金の版をのせているテーブルが見えました。私はそれを確かに見ました……。そして、まぎれもなく、モルモン経の金版の記録が神の賜と力によって翻訳されたことを言明される主の御声を聞きました。」（「ミレニアルスター」 Millennial Star, Vol. 43. P. 437）



律法を守ること

管理監督 ジョン H. バンデンバーグ

映

画製作者の故セシル・B・デミルは「我々はモーセの十戒を破ることは出来ない、ただ十戒にさからって、自身を破滅することは出来る。」といました。今日私達の回りに神様の律法や国の法律に逆らって、自分自身や自分達の生活を破滅させてしまった人を見かけます。教会の目的は、損害や悲しみから人々を守るように制定された法律に違反して自分達の生活をだいなしにさせないようにすることにあります。広い意味で法の基本的な目的は、問題を予防することばかりでなく、進歩のための指針を与えることでもあります。

ほとんどの若い人々は、次の言葉をよく知っていると思います。すなわち「私は、名誉にかけて、神と国とに誠を尽くし、スカウトの『おきて』を守り、いつも他の人々を助け、体を強くし、心をすこやかに、徳を養うように、最善を尽くす事を誓います。」

これは価値ある生産的な生活に向かわせるために作られた律法の一つであります。神と国の律法を守ることによって、青年は「体を強くし、心をすこやかに、徳を養う」ことができます。

だれでも、自分の属している団体の秩序を保っている規則に従わなかったらどんな事業においても卓越し得ません。

サタンの計画は永遠の律法に反しているので失敗します。カーライルはこの点について実に良く言い表わしています。すなわち「全ての偉大な心の持主は、彼らを治めているあらゆるものに謙虚に従い、心のせまい人はそうしない。」といました。

律法に従うことは進歩のための基本的な教義であります。例えば、科学者は宇宙を統治している自然界の法則を考えに入れて、はじめて宇宙船を月に送ることができます。同様に、神様の誠命に従うことによってのみ私達は人間の弱さを克服でき、最後に昇栄の祝福を受けることができます。主は「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約 130:20~21)と語られました。

一方律法に従順なのは明らかに進歩にとって必要であり、律法に従順なのはちょうどその反対の結果すなわち退歩へと導きます。イスラエルの王になるために予言者サムエルによって油をそそがれた若くて才気縦横なサウルは将来を大いに囑望された指導者でした。サムエルが国民にサウルを紹介した時、サムエルは「主が選ばれた人をごらんない。民のうち彼のような人はないではありませんか」といった。民はみな「王万才」と叫んだ。(サムエル前10:24)

不幸にもサウルは自分自身の傲慢さの犠牲になってしまいました。というのは律法の上に

王として自分がいるように感じ始めたのです。ある時サウルは予言者の任務を司どり、そして主に燔祭のいけにえを捧げました。サムエルがサウルのなしたことを知って、サムエルはサウルに言いました「あなたは愚かなことをした。あなたは、あなたの神、主の命じられた命令を守らなかった。もし守ったならば、主は今あなたの王国を長くイスラエルの上にもたれたであろう。しかし今は、あなたの王国は続かないであろう。主は自分の心にかなる人を求めて……」

(サムエル前13：13～14)

もしサウルが神様の律法に従っていたら、きっと偉大な王になっていたことでしょう。しかしながらその不従順によってすぐに憂うつな、きびしい長い期間を過ごすようになり、遂にギルボアでペリシテ人との戦いの最中に自分自身の刃で命を断ったのでした。

現在でも若い人々の何人かは法律を無視して行動できると思っています。そのような人々は自分自身を制することを学んでいないので、他の人々を制するように愚かしい努力をします。統計は成人の犯罪者が減少して18才以下の犯罪者が増加していることを示しています。

これらの青年達は法律に従わないことの代償がなんであるかほとんど理解していません。その代償とはしばしば監禁されることと思われる位なのですが、実際はそれ以上のもっと重要なことなのです。たとえその重罪の宣告をうけた青年が刑務所入りをまぬがれて仮出獄を許されたとしても、最も貴重な市民としての権利をいくつか失います。そしてその判決の記録は常についてまわり、彼の性格と誠実さにいつも疑いが注がれることでしょう。その上決して海外渡航の許可を得られませんし、どの国も居住者として認めないでしょう。

彼は決して公の仕事に就くことは出来ないし、その上保証人の証明が必要な信用ある仕事にも多分就くことが出来ません。たとえ市民として認められたとしても選挙権をもてないし、また国が青年達に奉仕するように要請する時にも彼にはその機会が与えられないでしょう。

神様の誠命や国の法律を、矛盾や拘束の絶えず続く原因と見なす人々がいます。このような見方は未熟で、小さな子供達がよく規則についてもつ見方と同じです、成長すると法律に従うことは法律を支配し、法律に背くことによって生ずる苦痛や悲しみから解放されることに気がつくようになりま

す。

実際に、真の自由とは正しい原則や律法に従うことによって生ずる産物であり、救い主の生涯ほどこのことについて明らかにしているものはありません。誰でもまだイエスよりも自由な生活をしたものはありません。イエスは父なる神様の御意に忠実であったために、全人類の問題の原因である人間の弱点に打勝つたのです。父なる神の御意にそったゲツセマネや十字架上のイエスの苦しみはまったく私達に自由を与えるためでありました。そしてその従順さのために「イエスはそして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となり」たもうたのです。(ヘブル5：9)

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるあなた達若い男性や女性は、神様に従うべきでありますし、律法に従わなくてもよいと誘いかけるどんな理論や哲学からも、たとえあるイデオロギーがこのことを支持するように思えても、離れるべきであります。神様は「何人もその国の律法を破ることなかれ。そは神の律法を守るものはその国の律法を破る要なればなり」(教義と聖約58：21)と語られました。

悪意のある対立すなわち律法と一致しないという理由とかただ単に思慮がないという理由によって、律法に従わないのは、相変わらず同じ様な悪いことを繰返し、いぜんとして自分の未熟さを表明しているのです。それに反し国の律法や神様の誠命に忠実であることは真の成長のしるしであります。ロバート・E・リーが述べたように、「あなたは従うことを学ぶまでは真の紳士(または淑女)とはいえません」は確かであります。

最近一人の父親が自分の息子のことについて記者からインタビューを受けました。その息子が特別の榮譽を受けたわけではなく、重大な罪を犯して告発されたからでした。その記者に語った父親の声は聞くからに落胆していることがわかり、やっと「今日は私の生涯で最も暗い日です」と語るだけでした。

この悲劇的な光景はもはや遠くの出来事ではないことを統計は示しています。もし数世紀前にシナイ山で与えられた「あなたの父と母を敬え……」(出エジプト20：12)という言葉に従っていたら青年達の間にある罪や無法や両親達の心配や悩みは実際になくなるでしょう。

わが家の初子

アミイ ヒルヤード ジエンセン

夜もふけて子供たちも休み家の中も静かになりました。父親の死後ここしばらく私たちと一緒にいて静かな夜を満たしてくれたポールも、もう床につきました。彼には大学の学期末試験が控えています。

私は、スタンドを暗くして腰をかけると、今日の午後、監督の事務所であったことをおもい出しました。私たちはポールが伝道に出る事について話し合ったのでした。私は、今、彼が私の本当の気持がわかってくれるだろうかと案じています。私は全部本当のことを言いました。「監督さんそれは彼の決心次第ですわ。私たちはその事について話し合っただけです。」けれども心の中では「いいえ、まだ早すぎますわ」と叫んでいたのです。

私は以前には決して「いいえ」といった事はありません。いつも「はい」あるいは「やってみましょう」といって来ました。家計はどうかやりくりが出来ますし伝道に出る事はポールにとって素晴らしい事に違いありません。でも、スーザンやビリー、ジョーは大好きな兄がいなくなったらどうやっていくのでしょうか？父親を亡くして間もないうちに、息子を伝道に出す母親は何を頼りにしたらいいのでしょうか？ポールは私達の初子なのです。どうして彼と別れる事が出来るのでしょうか。

そんな事を考えているとふと記憶がよみがえってきました。

春、丘の上に黄色いアパートが立っている光景です。その春に、私は教会を見出しました——というよりは、教会が私をみつつけてくれたのです。

★ ★ ★ ★

それはシアトルでの出来事です。戦争の始まる直前でした。私は17歳でロジャーという、とび色の目をした少年に恋をしていまし

「ごめんねジェニー・僕は本当に知らなかったんだよ」彼は、私のふるえているあごにさわると、上を向かせました。「さあ、さあ元気を出して笑ってごらん」

た。ロジャーはシアトルの天気のように気まぐれでしたが、彼が気がついてたかどうかはともあれ、私は彼の魅力についてひかれていたのです。

私のたった一人の家族である母親は、アパートを経営しており、私達二人はそこに住んでいました。そのアパートはスペイン風まがいの建築で、かび臭い長いホールがあり、ビュージットサウンド（ワシントン州北西部で太平洋岸の湾）が見渡せました。

春まだ浅いある日のことロジャーは私の学校へやって来て、家まで一緒に歩いて帰りました。

私達は大きな緑色の表戸の前を行ったり、来たりしながら大学で開かれる春の舞踏会のことを話し合いました。彼はその大学で数学を専攻していたのです。

彼はまだその舞踏会へ私を誘ってはいませんでした。彼の気持は私にはよくわかっていました。彼はむさうさに本をわきにかかえて黄色いしゅくの壁よりかかり、私は階段に腰かけていました。素晴らしいひとときでした。ロジャーは私がどれ程彼に思いを寄せているかを期待するかのようによく私をからかいました。ある時、彼は「僕の英語クラスにジンジャーというすごくきれいな赤毛をした子がいるんだよ」「彼女と結婚しようかな」などといいました。たいして傷つきはしませんでした。彼がジンジャーに注目している事を知って私は心中おだやかではありませんでした。私の髪の毛はねずみ色がかかった茶色をしていましたので。

しかし、今日の彼はいつもとどことなく違っていて、大学について話しながら、「来年は君もカレッジだね」「本をもってやるよ」などと言いました。めったに見せない笑顔にはえくぼが見えました。彼がそんな顔をみせた時、私は母親が以前いったように、「彼の口もとが弱々しい」とは思いませんでした。

やがて彼は私の方へ寄って来て、「君は僕のものだ。ジュニー」私の心は何か知らないもので捕えられ、驚きで心臓は止まりそうでした。

その時、戸があいて、母が顔を出しました。

「ロジャー今日は！」母はちょっとだけ笑顔を見せていました。「ジュニー、手伝ってくれる？アパートの地下を貸したの。間もなく新しい借家人が来るころよ。皿や台所用用品が欲しいんだって」その時、合図でもしたかのように一台の古ぼけた青いダッジ（自動車の名前）がかえでの老木の蔭になっている駐車路にガタガタいいながら止まりました。

母がほほえみながら出て来ました。「まあ間に合ったわね」母は私達を紹介して、「ジュニー、こちらはライル・ホルブルックさん……こちらはビル・スミスさんよ。皆さん、これが私の娘、そしてこちらはロジャー・ダニエル」

「素敵だわ！」皆が握手し合っている間に私は思いました。私がひかれたのはライルでした。彼の髪は黒く、目はいたずらっぽさをたたえていました。彼の態度が余りにも大っぴらなので、私はロジャーと一緒に当惑してしまいました。ロジャーは私と二人っきりのほかは、決してくつろがない人なのです。

「君は学校をぬけて来たの？」ライルがロジャーに尋ねました。

「うん」ロジャーは答えながら目を伏せました。

「ビルと僕は歯学部なんだよ」ライルは私を見て笑いかけました。母が「あなたたち、車を道端から車庫へ移さないこと。アパートのすぐ前で荷おろしができてよ」と戸口から声をかけました。

車がガタガタいいながら角を曲った時、ロジャーは車のナンバープレートを指しながら言いました「ユタからきたんだね」「そう、あたたったわ」母は答えました。「さて忙しくなるわね。さようならロジャー、ジュニーおいで」「はいお母さん。ロジャーいてくれない。母もあなたに手伝って欲しいと思うわ」それは思いやりのあるいいかたではなかったのですが私は彼にいてほしかったのです。

扉を勢いよく閉めました。でもロジャーは声を低めて言いました。「僕は君のお母さんの前では固くなっちゃうんだよ。帰った方が良さそうだね」

私は平静を装おうと努めました「それじゃいいわ」

彼は私の手を強く握りしめました。「きっとまた来るよ」そうして後へ戻りかけながらつけ加えるようにいいました。「あの二人に目をつけている方がいいよ。多分モルモンだと思うよ」私が返事をしないうちに、彼は家の角を曲って口笛を吹きながら消えてしまいました。

ロジャーは一つのことをあてたのです。ライルとポップはモルモンだったのです。でも私達は特別彼らに関心を払ってはいませんでした。彼らがアパートへ入居してしばらくしてからのこと、母がいました。

「ね、あの二人は、私の知っている限りでは、最も素晴らしい青年だと思わう」

私にはどうして母がそんな風にしたのか理解出来ませんでした。私達は大学の近くへきてから、よく学生達にアパートを貸しました。でも時々酒宴が開かれたり、女の子がやってきたり、部屋が汚されたままだったりしたものです。

ライルとビルには全くそんなことはありません。二人は教会と学校へ行き、自分で洗濯や、掃除をし、家へ手紙を書きました。食料品などを買いに行く時はいつも店まで母を車に乗せていくといってくれました。——でも、母はいつも私を使いにやりましたが。

土曜日になると、彼らは洗濯をしました。アパートの洗濯機は扱にくい古い代物で15分毎に五セントの白銅貨をいれてやらねばなりません。そこで彼らがその洗濯機を最初に使う時には私が階下へ下りて行って機械の取り扱い方を教えてやりました。その湯気のたちこめる洗濯部屋で初めて福音の真理をきいたのです。

もちろんそれまでに、歴史の時間や一度見た事のある映画などを通してモルモンについては多少なりとも知っていました。ブリガム・ヤングや開拓者のこと、またグレート・ソールト・レイク（大塩湖）についても知っていました。でもモルモンの人達がどんなことを信じているかについては知りませんでした。なんとなく「モルモン」という名は、外国の「異教徒」と同じようにいつも奇異な宗派に思っていました。

「あなたたちの宗教について少し話してくれない」子供じみた好奇心に聞えたとも気づかずに、頼みました。彼らはそれに答えてくれました。

それは素晴らしいひとときでした。金版の物語を聞こうとした時、古い汗じみたシャツを着た二人が絞り機に衣類をかけようとしており、それが終るとモルモン経の初めのくだりを聞かされました。

話が終った時には、とっくの昔に洗濯が終わっていました。

「次の日曜日には僕らと一緒に教会に来ない。お母さんも一緒に」とライルがいました。

「訪問者はいつでも来てるし、きっと君も行って良かったと思うよ」

私はあまり行く気がありませんでした。ロジャーが日曜にはたずねてくるかも知れないのです。でも母がいいました。「正直いってジュニーあなたは昼ひなからあの人の夢をみているみたいよ。あなたがいてやらないのも彼には薬になるわ」

そこで私達は一緒にモルモン教会を訪れました。建物は古くてみずばらしい郷軍人会連盟ホールでした。——全然教会らしいところはありませんでした。でも中に入ると美しい真珠を見るようなすばらしい靈感を感じました。今までこんな歌声を耳にしたことがありませんでした。儀式は簡潔で子供さ役割を持っているのを見て、私は深く心を動かされ涙を流しながら腰かけていました。それは不思議なことでした。でも私は家にいるような気分だったので

母は多く語りませんでした。きっと彼女もその場の靈感を感じていたと私は思いました。数日経って母はライルとビルを夕食に招待しました。彼らは長い時間いることはできませんでしたが、夕食の間、私達は教会や教義について語り合いました。

「私は什分の一についてそんなに熱心になれないわ、ライル」と母がいいました。「収入の什分の一は、とても大変な金額のように思えるの。もしそれを完全に納めている人がいればきっと特別な人よ」

ライルはほほえんでいいました。「大変な金額のように思えるのは私にもわかります。しかし什分の一がもたらしてくれる祝福はお金で計ることが出来ません。私が伝道に出ていた時、私は、次のように説明したものです。真の什分の一は私達の所有するすべての中から最初の果実を主に捧げることなのです。お金だけではなく、時間も労力もなのです」

このようなことをこれ程若い人（ロジャーより2、3才年上だけの）から聞くなんてまったく予想もしないことでした。私はロジャーがどんな風に考えているかいぶかしく思いました。ロジャーと私は宗教について一度も話し合ったことはありませんでした。私が真剣になるといつもいやがっているようでした。

その夜、ライルとビルが帰った後、ロジャーがやってきました。「親父の車を借りたよ。」彼はいいました「ドライブに行こう」私の心臓はドキドキして、おそらく今夜、ダンス会へ誘ってくれるでしょうと思いました。

雨が降っていたので私はコートを持ちました。母が真剣なまなざしで立っていましたが、知らんぷりして、母を抱き締め、勢いよく外へ飛び出しました。私達は最初にボーリングをしに行きました。すべては順調でした。ところがそこへロジャーの仲間がやってくると、今までの楽しさは消し飛んでしまいました。仲間と一緒にロジャーは何ということでしょう。私は驚いて彼らの乱暴な話しぶりには耳を貸すまいと努めました。

私達は間もなくそこから、断崖の方へドライブしました。そこからは、霧雨の煙る港で光を点滅させている船を見渡せました。ロジャーが近づいて来ました。私はビルやライルと共にした夕食のことや彼らが私の質問に答えてくれたことなどを考えこんでいました。するとタバコの強いにおいがするロジャーの息がして、私は顔をそむけてしまいました。

「おい、今夜の暮はおかしいよ。」彼はいいました。「あのモルモ

ンの連中は僕の時間を台なしにしてくれたな」私は彼がライルのことをいっていることに気がつきました。

「馬鹿なこといわないでよ」私は怒って彼のそばを離れました。「彼は忙しくて女の子のことなんか考える暇がないのよ。とにかくロジャー、彼は確かに好青年よ。彼は教会のため2年間も伝道したのよ」

「2年だって？」ロジャーは大声をあげました。「もし僕が2年も宣教師をしていたら、君は僕と会えなかったらうね」

私は彼を見つめました。額から口へかけての彼の横顔はシルエットのように暗く浮きぼりにされていましたが、光のいたずらで、あごの方はぼんやりとしていました。「ロジャー」私は悲しんでいいました。「あなたは何かを真剣に考えていないの」

彼は笑いました。「もちろん考えてるよ。最も素的な人についてね。それは誰かな」「ロジャーちっともおかしいことないわ」私の目は涙がたまって真赤になりました。彼が私を抱こうとしたので、私は乱暴に彼を押しやりました。

「わかったよ」長い沈黙が続き、ワイパーの音だけがしていました。「ところで」と彼はいいました。「君にあることを話そうと思ってたんだよ」彼の言葉は外の雨のように、冷たく、まじめでした。「僕はジンジャーに、僕と一緒にダンス会へ行くよう招待したんだよ。このことは君をだますことになるんじゃないかと心配なんだよ。」

そうやって彼は車を道路へ戻し私を家へ帰してくれました。

次の朝床の中でうつらうつらしながら、ロジャーのことを思い出しました。彼はあやまりもしなければ別れも告げずに、私をアパートの前に置き去りにして行ったのです。私もプライドがあったので何もいわないでいました。

私は気を使いながら何があったかを母に話しました。彼女のきれいな茶色の目は、私のために悲しんでいるようでしたが、やがてほっとしたように「ほかにも男の子はいるわよ」といってくれました。

でも私はそう簡単に忘れることが出来ませんでした。指を一本失った手のように、傷ついていたむ、むなししいものがありました。日記のページを埋めつくし、悲しみの詩をなぐり書きました。友達（女の友達）と一緒に映画に行き、急いで家へ帰っては、私に呼び出しがなかったかを聞いたりしました。また若い二人が手に手を取って歩いているのを見ると、私はいそいで目をそらせました。

ライルは事の次第を知っていたに違いありません。ある日、私が玄関前を掃除しているのを見かけると、声をかけてくれました。

「元気を出しなよ、ジュニー。可愛い君がこんなにやせちゃって」私はうれしくなって彼にほほえみしました。「どう、ビルや僕と一緒にもう一度、君もお母さんも教会に来て見ない」と彼はいいました。

私達は教会を訪れました。そうしてまた家にいるような落ちついた気分を味わったのです。

間もなく教会へ通う事は習慣になりました——日曜日には、日曜学校と聖餐会、火曜日の夜はM. I. Aと。時々母と一緒にそうでなければ、教会の新しい友達が車で連れていってくれました。幾度もビルやライルとも行きました。彼らは私がいつも欲しがっていた兄弟のように思えました。

すべての事が突如として変ってしまいました。5月のある日曜日、私は数週間もロジャーの事をまったく考えていないことに気がつきました。藤の甘い香りをかいても、ラジオから流れるラブソン

グをきいても自分がライルのことを考えているように思えました。

それはショックでした。彼はいつも私に親切にしてくれましたが、それ以上の何物でもありませんでした。そこで私は考えました。彼は私はまだロジャーを愛していると思っているのかしら？ 私はまだまだ若いのかしら？ おそらく私に似つかわしい誰かがいてくれるに違いない。しかし私はそんな風に考えたくありませんでした。私のロマンチックな心は夢で一杯でした。毎日、彼ら二人を学校の行き帰り車に乗せ、夜はゆっくり皿洗いをしながら心の中で詩をつくりました。時折、朝早く起きて歩いていると、胸の喜びは電流のようにつま先や指先から流れていくようでした。

そんなある日曜の朝、私が郵便を取り出ししていると、ライルが廊下にある郵便箱にやってきました。彼は郵便箱から手紙を取り出しました。私は不意に何か言ってみたくになりました。「ライル、家からの手紙なの？ きっとガールフレンドが書いてよこしたんでしょう」「そうとも毎週ね」封を切っている手紙から目をあげて彼は答えました。それから口を開けて大きく笑い、「君が気がついていたとは知らなかったね」とたんに私の目は涙で一杯になりました。私は必死にこらえながら、何も言うことが出来ませんでした。手紙を読み出したライルは、また顔をあげほほえんで見せました。それから彼の表情はまじめになりました。私は目を伏せましたが悲しみをこらえきれませんでした。しばらくの間私達はお互いに心の中から語りあいました。

彼は静かな声で「ごめんねジェニー。僕は本当に知らなかったんだよ」私の震えるあごにさわると上を向かせました。「さあ、さあ元気を出して笑ってごらん」なんとか笑い、そして何か軽い冗談でもいおうとしましたがどうにもできませんでした。私はただ微笑し鼻をつまらせながらそこに立っていました。

彼は自分のハンカチを私に渡してくれ、私が目をおおうと気をきかして窓の外を見やりました。「ジェニー、君も知っているとおりの、最も素晴らしい福音の原則の一つは、永遠の結婚なんだよ。僕は小さい時からその事を教えられてきたんだ。それで伝道に出る前にすでに僕は結婚する人をきめていたんだよ。彼女は君のような人なんだ」

彼はふりかえり 不意に私の髪に手をかけました。「本当のところ僕は、以前に、君が教会に入ったらロジャーが失う物がなんであるかを、気がついてくれるだろうと思っていたんだよ」彼は快活そうに話してくれました。でも彼の目は疑っているようでした。

やっとの事で私は物をいう事が出来るようになりました。「むかしの宣教師は、今も宣教師なのね」私達は一緒に笑いました。それからライルが階段をおりて、彼の部屋へ戻り私も自分の部屋へ戻りました。

モルモン教会へ通うのを止める事は容易なことでした。ライルが私に親切であればある程、私はロジャーに断られた時よりももっと心に打撃を受けたのです。けれども、もしライルのことで教会を去るようなことがあれば——あるいは、本当のところ、私のプライドのために——私にとって大切になって来ているものを失ってしまうだろうとわかっていました。

そうして幾日かが過ぎました。私は日記に書きつけました。なぜなら書き留めておきたいと思うことや整理したことが山程あったからです。時間がかかりましたが、とうとう私はライルのことが気がかりにならずにすむようになりました。いつの日か恋したいと思う

ような、ちょうどそんなたぐいの人としてだけ考えられるようになりました。ロジャーが、その後どうしているかはわかりませんでした。この新しくなおりかけた傷にふれに来るのではないかと時折心配しながら彼の事を考えました。

そんなある夜、彼がやって来ました。彼は私達二人の間が以前とまったく同じであるかのように振舞いました。それは土曜日の夕食後のことでした。彼は私をダンスに誘いに来ました。「僕はうろろしてたんだよ」彼は腰のポケットを軽くたたきながら、なつかしいあの不思議な笑顔を見せていました。

「ごめんなさい、ロジャー」私は彼にいいました。「でも私には別の計画があるの。」

彼は片方のまゆを上げながら静かにいいました。「ね、ジェニー君を訪問しないで悪かったよ。でも僕は決してジンジャーといたわけではないんだよ。僕はただ階下にいるあの男の子にやきもちを焼いていただけなんだ」

彼の黒ずんだ厚いまぶたでおおわれた目はまだ私の心を動かす力を持っていました。

一寸の間私は動揺しました。一か月前だったらこのことは大きな意味があったでしょう。私は泣きたくなりました。でももう遅すぎたのです。彼の捧げてくれたものは、真珠をかいま見た人に、まがいものうにを差し出すようなものでした。今の私は、いったいどんなもので幸福になれるというのでしょうか？

「ごめんなさい、ロジャー」私はもう一度いいました。「今夜、私は、M. I. A. に行くの。わかるでしょう。私は末日聖徒になる決心をしたのよ」

私達はさようならといいました。ロジャーは固い表情で一寸笑顔を見せただけででした。私は彼の想像以上に心に痛手を受けたのです。

★ ★ ★ ★

夜も大分ふけて来ました。私は思い出すことに疲れました。明日は監督がいらっしやるでしょう。私は心の準備が出来ました。今私は自分に尋ねています。もし私が、ライル・ホルブックを知らなかったら、私の生涯はどんなだったかしらと。

私はロジャーと結婚しただろうとは思いません。でもいったい誰がそう断言できるでしょう？ 私はかつて、人間の一生とは一方を流れるかあるいは他方を流れるかして海に注ぐ川であると考えました。私は考えたのです。どの道筋を行こうと、私達は神のところへ戻ることから逃れることは出来ないのだと。しかし、必ずしもそうではないのです。若い流れは、自然のコースからそれて、干からびてしまうか、よどんだ泉に迷いこんでしまうこともあるのです。

このことを考えると、私の心は、ライル・ホルブックや、全世界に福音を伝えるため、彼のような青年を送り出している教会にますます感謝でいっぱいになるのです。と申しますのもまた私の夫であるジムと会えたのも教会ですし、私達が永遠の結婚をしたのも教会だったからです。

さて、私達の羊の群の初子にもお召がやって参りました。彼がもたらすメッセージをどこかで誰かが待っているのでしょうか？ もしいるとすれば、ポールはそれを伝えなければなりません。主は20年という息子の生涯を私に下さいました。そのお返しにあげる2年はまったく少ないものです。

監督が来られたら、ポールは誇りをもって答えることでしょう。私の心はロジャーに別れを告げたあの夜にもう決まっていたのです。



新年に望むことは

平安ですか

もしそうなら、心に平安を持ちましょう。家庭に安らぎの場を持ち、混乱をさけましょう。「わたしの平安を汝に与える」と救い主は言われました。この平安を得るために、主の賜物を受けて、みむねを行ないましょう。

喜びですか

良きことを行い、誠命に従う喜びを、いつも自分たちのまわりに持ちましょう。「人類が現世にあるのは、幸福を得んためである」

生活を喜びに満ちたものとするために自分の役割をよく認識して、この喜びという贈物をいただきましょう。

愛ですか

人を愛し、自分も愛されるようにしましょう。自分の愛を、言葉や行いであらわすのにためらわないで下さい。他の人に奉仕することによって、自分の愛を人々に拡げて下さい。愛の御方でいらっしゃる神様から、この贈物をいただきましょう。

時間ですか

貴重な時間、分、さらに秒までも、もっと有効に使うようにして下さい。自分のやりたいと思う事を全部するには、その時間を、自分で作り出さなければなりません。この時間という贈物をいただきましょう。

機会ですか

自分の身近かにある、可能性に目を向けて下さい。自己を進歩させたいと願うならば、視野を広げ、自分で、学び、認識し、成長する機会をつくって下さい。この機会という贈物をいただいて、望みを果たしましょう。

愛する姉妹のみなさまへ

あなたがたが、自分が幸福になるために望んでいることが、新年にもたらされますようにお祈りしています。あなたがたの心の内の正しい願いと共に、平安、喜び、愛、時間、そして機会が、この新年に実現されますように。皆様の上に天のお父さまの恵みがありますようにお祈りいたします。

扶助協会中央管理会長会



ベル S. スバッフオード



ルイス W. マドセン



マリアンヌ C. シャープ

ステーキ部センターの台所で、ゼリーサラダが「出来上っていません」と聞いたときにはス
おどろきました。タイム（たちじゃこう草）ローズマリー（まんねんろう）それにオレ
ガノを使ったきれいな巻き菓子と、甘いリンゴジュースとジンジャーエールを味つけし、大き
く新鮮なイチゴの氷させたものを浮かべたパンチと、ふわふわとやわらかく、バターをぬった
クルミ入りのお菓子が出来ていました。90人の姉妹たちが、2時間もかからないうちに、昼食
を準備したら、これらの料理はとてすばらしいものとなります。サラダはボールに盛られ
て、スプーンで食べることになっていました。「サラダが出来上ってない」と、小声で知らさ
れたときは本当にびっくりしました。この昼食会はとて大切なものでした。ステーキ部扶助

台所でびっくりしたこと

ヘレン・ヒンクレー・ジョーンズ

協会が、前期の指導者会に続いて、ワード部役員教師をねぎらうために開かれたものでした。サラダは、美しい小エビをあしらって、エビの色をしており、またサワークリームと、きざんだネギを入れて、パーティーのための食物として申し分のない見ばえでした。しかし、12個のボールに盛られたサラダの1つをとって、ナイフで注意深く割れ目を入れて、味見をした人はみな、「これは、まだ出来ていない」と悲しそうに言いました。サラダをのぞいて、すばらしい料理を準備していたけれど、失敗になれていないので姉妹たちはあわてました。「もっと濃厚にしたゼラチンをたしてもおそすぎるわね」と誰かがいうと、「おそすぎるわね」とジャスミンは言いました「クラリスに渡して、冷蔵庫に入れたらどうかしら」と誰かがいいました。氷のかたまりはおいしそうではありませんでした。「誰かレタスとまぐろの缶詰とを買いに行つて来て、かんたんなサラダを作らなければ」とサリーが決めました。彼女は、あまり料理自慢の方ではないので、少し、おずおずと言いました。料理になれていない人は、失敗にはなれていました。

ゼラチンのデザートがかたまらないときは、彼女はそれを、パンチに入れて、クッキーと共に出しましたし、彼女の作った、カスタード・プディング、タピオカそれにサゴが固くならない時などは、それを水気のなくなった缶詰の桃にかけて、出したりしました。ケーキを作つて、やわらかすぎる時などは、角に切って、砂糖でまぶしたり、またそれがパサパサすぎる時などは、蒸して、プディング用のレモン汁をかけて出したりしました。ミートローフを作つたとき、切ってみて、肉がまだ少しなまだったりすると、それをうすく切つて、バーベキュー・ソースをかけて、焼肉にして出しました。固まっていないゼリー・サラダなどは特別にあわてる必要もなく、ましてや、全力投球でやらなければならない程の事でもありませんでした。「レタスとちしゃ、それに水ときからしと青々とした野菜を近くのマーケットで買って来て下さい。それらを切つて、調理して、デザート用のサラダにしましょう」と彼女は言いました。さあ仕事にとりかかって何事もなかったようにしましょう」とジャスミンが言いました。そしてその様に事を運びましたが、クラスの間、一人の姉妹が急いで野菜を買いに行きました。「誰にも、サラダがどうしたなんて事はしゃべらないでね」とサリーは皆に約束させました。しかし、もちろん、こういうよい秘密は守り通せるものではありません。「こんなおいしいサラダは食べた事がないわ」と姉妹たちは言っていました。サラダドレッシングがすばらしいわね、秘訣を教えてください、成功はすばらしい事です——誰もが望むことです。しかしたまには、失敗を成功に変える方法を教えてくれるような、失敗したサラダも必要です。もし予期せぬことに全然会わなかったら、私たちは工夫とか機転をきかす事ができなくなります。たくさんの重要な科学の発見がなされてきましたが、それは、ほんの小さなまちがいから、方式や成分が少し違ったものになって新しい結果が生まれたことによるものでした。「一事成れば万事成る」とは昔のことわざです。それとは反対に「一事成らざれば万事成らず」ということが言えるかもしれません。しかし、これは真実ではありません。予期せぬ「失敗したサラダ」のようなものほど、私たちの工夫、機転、能力を伸ばすものではありません。そして、身近な失敗から生まれる成功ほどすばらしいものではありません。

日曜学校

生活を 変える 教え方



クラーク D. ウェブ

一 千年ほど前、イエスは次のように言われました。

二 「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」(マタイ7:21)

1905年デビッド O. マッケイがウェバーズステーク部日曜学校の副会長のとき、生徒たちがレッスンの内容を実行するようにと次のように言われた。「善が何かを知るだけでは十分ではない。私たちは善を行なわなければならない」。それから63年経った今、心理学者ビクター B. クリンは、あるグループ(末日聖徒も含めて)の外見的、宗教的な行ないは、真のクリスチャンの愛の行為とは「ほとんど無関係になされている」という証拠を挙げて、次のように書いている。「これらの事実から、もし子供や大人が教えられたことを実行しない、あるいは生活をよりよい方向に変えないとした

ら、私たち教師は誤まっていると云わざるを得ない。」

これらの言葉の意味は明らかである。すなわち個人を救うのは福音の知識ではなく、知識を**実行に移す**ことにあるのである。日曜学校の教師の皆さん、あなたがたはクラスで教えたことを生徒が生活にとり入れるように何か**なさ**っておりますか。このように生徒を行動に導くため具体的な方法を述べているマッケイ大管長は、「行動へ駆りたてるもの」と言っておられる。

深く学ぶには次の三つの道を通る必要がある。経験→熟慮→行動、それらを感覚でいえば、最初の経験は、見たり、聞いたり、嗅いだり、味をみたり、触れたり、探したり、事実を集めたりすることである。次にこれらの経験について考えて価値を判断したり、相談したり、祈ったり、目標をたてたり、霊の声に耳を傾けたり霊的な価値を認識したりして私たちの

知識を変えるには

1. 「私たちは定員会の会員たちを助けなければなりません」
2. 「私たちはすべて家族の祈りをしなければなりません」
3. 「奉仕は福音の中でも、最も大切な原則であることがわかったと思います」
4. 「若い皆さん、両親に従うことがどんなに大切かよくわかっていると思います」

生活を変えるには

1. 「兄弟たちよ、私たちはおたがいに助け合うために何か具体的なことを行なおうと意見が一致しましたが、それはどんなことをしたらよいと思いますか」
2. 「もしあなたが定期的に家族の祈りをしていないならば、この目標を達成するためにまず今晚やってみませんか。家族皆でひざまずいて祈ってみませんか」
3. 「奉仕の原則がわかったなら、今週誰かにそれを示すためにどんなことをしますか」
4. 「子供の皆さん、私たちが両親を心から愛していることを示すにはどうしたらよいと思いますか。……さあ、皆さん一人一人が両親を愛していることを示すために何か2つのことを今週中にやってみませんか」

考えを作り上げるのである。最後に、学んできた考えや原則を実行に移すのである。私たちはなすべきことを行う機会を捕え、それを熱心に遂行し、時に応じて自制し、正しいと信ずることを行なう、すなわち実行するのである。

この三番目の道である「実行」を強調することは、生徒が「天父のみむねを行なう」よう助けることになるのである。まずあなたのレッスンの目標を、単に生徒が概念を知ることではなく、その知識を使って行なうことにしなさい。しばしば教師は生徒がそんなことはすでにやっているのだから、それらの教えの行ない方まではのべなくともよいと考えている。しかし前ページに掲げた文章を見て、生活を変える教え方と知識を変える教え方の違いをよく比べてみよう。教師はこの大きな違いに気を付けなければならない。

知識を変える教え方は、生徒が教師の望むように理解させるために言葉の使い方に頼ることが多くなる。生活を変える教え方は、知識を伝えるためだけの言葉よりも行動を促し、生徒にものごとを行なうよう励ます言葉が多くなる。行なうことは学んだことが具体的な形となってあらわれるたった一つの方法と言えよう。

生活を変える教え方は教師に「私が教えようとしていることを本当に『理解する』人は、一体なにをしたいと思うか」という大切な問題を考えさせることでしょう。すなわち、末日聖徒が祈りや、悔い改めや、神殿結婚や、神権の力などの福音の教えを「理解する」と、これらを理解していない人が行なわないどんなことをするであろうか。

さらにクラスの人たちの行ないを強調することは、報いが大きいのである。生徒がその教えについて話し合えばそのことがよくわかっていると信じる教師も少なくなることでしよう。祈りや従順について話し合う能力があるのみでは、その人がよく祈り従順であるとは必ずしも言えないのである。言葉は単にある事柄をあらわす象徴であって、教会の教えによれば言葉は事実そのものとは異なっている。

私たちの信じている宗教は単なる思想ではなく、方法なのである。

来月になれば、あなたがた教師は生徒を福音のうちに生きるようにレッスンをよりよく使う方法をいろいろと検討なさるものと期待しております。

今月の
前奏曲



1月の聖句

大人日曜学校

見よ、これがわが業にしてわが栄光、すなわち人に
不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり

(モーセ 1:39)

子供日曜学校

自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ

(マタイ 22:39)



MIA スポーツプログラム

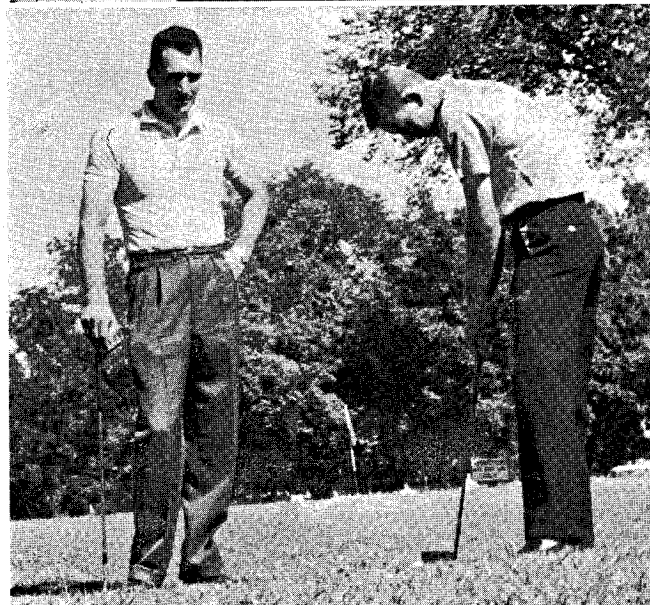
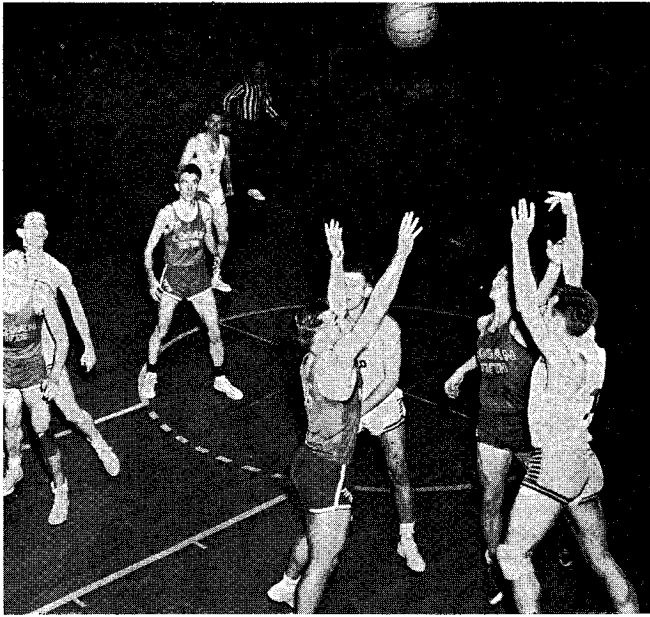
教会は、すべての人が、心身共につりあいのとれた生活をするよう教えている。確かにつりあいのとれた生活をするには、スポーツを通じて得られる精神的なくつろぎと身体の発達が一つの大きな要素となっている。大切なことは組織的に行なう競技で、チームや個人のスポーツマンシップが特に強調されていることである。

毎年ソルト・レークで若い人々のために、全教会トーナメントが開催され、ソフトボール、野球、バスケットボール、ゴルフなどの競技が行なわれる。そこには、各国から多数の選手が集まって来る。

教会員の霊的レクリエーションを目標としているわけであるが、MIAの重要な目標のひとつを達成するため、世界の各地で競技が行なわれている。MIAが組織されるとその国の盛んなスポーツ競技が、MIAの活動の中でとり入れられるのである。

最近の調査によれば、教会のスポーツプログラムは、約1,000人の改宗者と2,000人の不活発会員の活発化をもたらしている。1,000人も改宗者をもたらしたのは、スポーツプログラムに参加している教会の若い人々の行ないと霊性が彼らに強い印象を与えたことを物語っている。各チーム、個人は厳格なスポーツマンシップのルールに則り、またコーチや役員もその指導や行動に教会の高い標準を維持するよう要請されている。

先シーズンだけでも、バスケットボールのみで、ほぼ20,000人の選手と2,000チームが参加している。



次の手紙は、全教会バスケットボール・トーナメントについて、あるステーキ部長が書き寄せたものの抜粋である。

「あなたもその場に居あわせたら、非常に霊的な経験をしたでしょう。その金曜日の夜、優勝決定戦で負けた私たちのチームは、更衣室に戻って来ました。もちろん、選手たちはがっかりしていました。しかし、チームにも選手にも相手を非難するようなところはありませんでした。むしろ、友として分かち合ったすばらしい経験と自分たちがトーナメントでワード部とステーキ部の代表になれたことに感謝していたのです。コーチはこう言いました「みんな最後の試合で負けて残念だったけれども、よくやってくれた。僕たちは、こんなに強い友情のきづなで結びあつたし、トーナメントを通じていっしょにプレーできた。みんなこのすばらしい経験ができたことを感謝しなくてはならないと思う。」私たちは、最善を尽して、よい試合ができるよう主に助けを求め、主が私たちを祝福し給うよう祈って毎試合に臨んだのです。」

MIAスポーツプログラムを進めて行くにあたって必要なのは、この計画に興味をもった熱心な指導者を持つことである。YMMIA中央管理会スポーツ委員会は、世界各地でスポーツを競技プログラムと規則に従って実施する組織の設立をよこんで援助しようとしている。すでに、このプログラムを指導し、継続するための基本的な規則・標準・手続きを定めている。その概略については、要求すれば、ステーキ部、伝道部の管理役員に送付される。このプログラムは、参加する人々に競技の感激の味わせるといふ点で、類いまれといえよう。参加する人は、必ずしも体格が堂々としていたり、身長が大きいとか優秀である必要はない。また教会員である必要もないのである。

アメリカのスポーツ団体で有名なある人は私たちの教会の試合を見て次のような感想を述べている。「私たちが主催しているリーグでは、選手がこれ程紳士的な試合を見たことがない。」

宗教に全然関心が無いと思われる若い人々も、競技を通じて教会に関心を持つようになる。それは彼らの望むものを与えることにより、真実幸福な生活に、何が必要かを知るようになるからである。

このプログラムにより、若い人々は教会において確固たるものとなり、証詞を強め、正しく生活しようという望みを抱くようになるのである。



忠実であれ

スティーブン R・コーベ
前アイルランド伝道部長



私がアイルランドで伝道の仕事に携わっていた時、幾度となく証詞についてのひとつの簡潔でしかも力強い教訓をしみじみ感じさせられました。それは、

人は、真理に対していかに忠実であるかの度合によって、真理を知るようになる、

ということでした。

イエス・キリストの神聖さを知ることは、他のことがらを知るのとは、わけがちがいます。

それは、元来、知識を獲得するとか、論理性や、合理性や聖典にのっている証拠や、歴史的事実を知ることではありません。

私たちが実際の生活によって求めるべき知識を、行ないの伴わない単なる知識にとどめてしまうのは間違いであります。実際の生活で学ぶには全く異なった方法があります。

再び申しますと、この原理は、

私たちが主を知るためには、ただ真理を求めようとするだけでは駄目であって、忠実であろうとすることが必要である、

ということです。

私たちの生活に、主に対する忠実を示してこそ、この真理は見出されるのです。

だれに責任があるか

天父は、どんな人でもその資格があれば、聖霊によって、御子の神聖さの証詞を与えると約束しておられます。それで責任ということが、資格ある私たちにかぶさってきます。主との交わりは主からはじまるではありません。その約束された御旨を受けるために自分自身をかえ、よく準備しなければならぬのは、他ならぬ私たちなのです。

私たちは、

わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると、主は言われる。
(イザヤ 55 : 8)

とか、

いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。

(Iコリント 2 : 11)

とか、

神のみこころを行なおうと思う者であれば、だれでも…
…わたし自身から出たものかわかるであろう。

(ヨハネ 7 : 17)

とかいうことをはっきりと理解しています。それで、私たちは、この知識に対する鍵を**心の中で**探はじめるわけです。私たちは「どれだけ真剣だったろうか？ほんとうに知りたいたいと思っているだろうか？資格を得るために勉強、祈り、悔い改め、奉仕が必要なときに、よろこんでその代価を払おうとしているだろうか？」と尋ねてみます。

多くの人々は、自分たちが疑っているのは、キリストについて証詞する予言者ではないということに気がついていません。深く自分をかえりみれば、証拠を受けることができなかつたことで主を非難することは**正直になれば**できなくなります。彼らは、自分をりっぱにできる能力があることを疑っているのです。一方、障害や弱さが**自分**にあることに気づいているのです。

ある求道者は次のように書いています。

「私は禁煙が本当にできるのか、ただそれを止めたいと思っているのかわからなかった」と。

また他の求道者は、このような自分の正直さが危険にさらされているときに、問題は彼ら自身のうちに——すなわち、知的小おごり、おそらくまたは肉欲とか、物欲、偽善にあることに気がついていきます。彼らは、キリストの神聖さの証詞を得られなかつたことを知ります。なぜなら、**人々の心甚しくこの世に属けるものの上**にあり、**唯々人間の誉を得ることをのみ望んでいて、次の教えを知らない**からなのです。すなわち「**天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり**」
(教義と聖約121 : 35, 36)

個人を変えること

多くの人々はこの教えを好みません。なぜなら、しばしばこれはその人にとってある苦行を意味し、個人を変えるためにつらい努力をしなければならぬからです。これらの苦行や努力をさけて近道する方法はありません。その人の古い部分を残して単にキリストの知識を得るということではないのです。その人自身が、もしもキリストの神聖さについて証を受けようとするなら、**変わらなければならないのです。**

この教えは、救主がこの世におられた時代の高慢な願いを抱くユダヤ人をおそれさせました。彼らは、この世を変える責任を負ってくれる力強い、政治的な救世主を探し求め、自分を変える必要はないと考えました。彼らは、聖典を研究すれば永遠の生命を得られると考えていました。しかし、キリストは、この「つらい」、避け難い教義——聖典が、ことばだけでなく、実際にキリストのみもとに来る必要性、キリストの教えにそって生活することを指摘しているような教義を教えられました。イエスは言われる「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない」

(ヨハネ 5 : 39, 40)

私たちの良心

私たちはキリストのみ言葉通りキリストのみもとへ来ました。主はこの世におられたとき御自身でこれらのことばを述べられ、後に、予言者を通して述べられました。これらの教えの一部は、聖典を学ぶだけでは十分でないことをはっきりさせています。私たちはキリストの「みたま」とともに生活しなければなりません。そのためのなかだちとなるのは、その人自身の良心なのです。

ではどのようにして人は良心に問うのでしょうか。今すぐ正直に自分に尋ねるかも知れません。「救主に近づくために何をしたらよいだろう？」と。ちよっと、自分に聞いてくださいませんか。そしてじっくりと考えてみてください。それから自らを省み、再び聞いてみてください。あなたに話しかける声が聞こえますか。静かな、小さな良心の声。耳で聞くものではありません。あなたの内部で感じるのです。心の深い奥底で。主に近づくために何をなすべきか語っていますね。悔い改めなければならない行ないがわかるでしょう。もっと誰かに対して親切でなければならないこと、誰かにゆるしを乞わなければならないこと、なおさねばならないこと、もっと伸ばさなければならない徳なども感じるでしょう。良心で聞き感じることは、**イエス・キリストの、力ある生ける証詞を得るあなた自身の公式**なのです。

私たちは聞きません！

主は、私たちが主に対し心をかたくなにしているも、ニューフェイスがレーマンとレミューエルに示したように、私たちに目的を達せさせようと試みておられます。「あなたたちはその御声を時々聞いている……あなたたちはなんらの感じもなか

ったのでその御声を感じることができなかった」。

私たちはまた、宗教的な礼拝と祈りを「うわべだけで行ないます」。私たちの祈りは一方交通になり、機械的で、儀式的になり、義務的になり、それは願望ではなくなり、**「彼らは口で私に近づきけれど、心は私から離れている」**のです。私たちの多くが、信仰を持たずに祈っているのは事実です。そんな祈りには答えを受けることもなく、主と交通することもできません。私たちは聞かないのです。

私たちは、祈りの中で「聞くよう」につとめなければなりません。私たちが特別な祝福を求めるとき、祝福が与えられる律法を理解するよう心をじっと傾けましょう。(教義と聖約130:20, 21参照)。心の中で答えを聞くときは、注意深く考え、自分がその律法に従おうとしているかを正直に心に問うてみましょう。もしそうするなら、私たちが従おうとする主に答え、約束しましょう。もしそうでなければ、祝福を求めないようにしましょう。もし私たちがキリストへの生きた証詞に心からよることでゆだねようとしないならば、私たちはそれを受けることができません。

「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」
(ガラテヤ 6:7)

生きているもの

自己の正直さ、謙遜さを起させるものは、誠実で、よく聞こうとする祈り以外にはありません。それはキリストのみたま、キリストの光と結びついた生活へ私たちを導いてくれます。完全な正直、謙遜、こままっている人々に手を差し伸べることで、献身という態度の中に、私たちが導き手、または伴侶としての聖霊を文字通り持つことができるのです。聖霊は、イエス・キリストの神聖さを証してくれます。

どんなに私たちが知的であって、知識があったとしても、もし私たちに神の「みたま」とともにある真の個人的な経験がなければ、生まれつきの盲人が、どんなに眼の解剖学や光の性質を丹念に述べられても、光や光景について理解できないように、キリストについて知ることはないのでしょ

この個人的な証詞は、このように生きているものであります。それは誰かから借りたものでも過去の霊的な思い出からくるものでもありません。

それはむしろ井戸の「生ける水」(ヨハネ4:10)です。それは熱心な祈り、研究、悔い改め、契約を立てたこと、従順そして奉仕を通じて得た最近の真の経験から得られたものであり、また「誠心誠意」(モロナイ10:4, 5)に行なわれる力強い教えによって得られるものです。

キリストを知ることはキリストのように絶えず努力することです。また神聖な性格を自分のものにするのです。(Ⅱペテロ1:3-8参照)。永遠の生命を得るためにはこのような知識と状態が求められているのです。

(ヨハネ17:3参照)

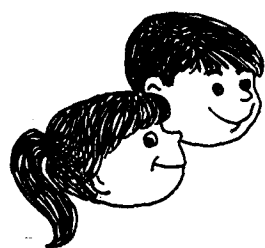
ニー、ほくたちが手伝ったらどうかなあ、もしできれば、カーステアーズ氏に聞いてみるといいけど」とパットがいうと、「忘れてたよ。だけど、今これから聞いてみるよ」とダニーはあやまりました。3人が博物館の見えるところまでくると、パットが突然騒ぎました。「ねえ、見て警察の車があるよ」「わあ、特別な事でもなければいいけどなあ」とダニーがいました。「きつといい知らせよ、ちょうちょどろぼうがつかまって、犯行現場に犯人をつれもどしに来たのに違いないわよ」とパムがいました。3人の若いそうきはんが、博物館の入口でブレーキをかけて止まると、マーチン署長とカーステアーズ博士が、3人にあいさつしました。ダニーが何事が起ったのかを聞くと、盗まれたちょうちょが見つかったと聞かされました。ダニーは何をいってよいのかわかりませんでした。彼には、想像も出来ない事でした。この事件は、ただごとではなく、不思議な謎にまつまれています。カーステアーズ博士、マーチン署長、それに3人は立って、警官が車の後のトランクから、ごみ入れを取り出すのを見つめていました。カーステアーズ博士は、不満そうに「恥しいことだ、何んで、すてるためにちょうちょを盗んだりするんだろう、全く意味がわからん」とぶつぶついいました。「うちの署員に、ちょうちょの手がかりを調べさせているのが、ばからしいですよ」と署長がいました。何か、他にもわかりましたか」とダニーは熱心に話の中に入って行きました。マーチン署長は、首をふって、「いいや、だけど、これを見つけたんだよ」とポケットから封筒を取り出して、手を入れて中味を出しました。それは、前は、乳白色のちょうちょでしたが、今は、そんな物には見えませんでした。「どうしたんですかこれは、焼いた

みたいになっちゃってますよ」「その通りなんだ、実際、そのごみ入れの中の白や黄や明るい色のちょうちょにはすべて、羽にしるしがついているし、その中のいくつかはこんなふうに、焼けて、カリカリになってるんですよ、だけど黒っぽいちょうちょには手もふれてないんですよ。それがわかりますか」とマーチン署長はうなづきながらいました。カーステアーズ博士は、どうしようもないという様に、首を振って「まったく、こんなことは理解に苦しむよ」といいました。事務所でダニーは、くずかごを仕事机の横において、注意深く、乳白色の羽が、こげてさび色になっているのを見つめるまで、中味を取り出して調べました。なぜ、ちょうちょを焼きたがるんだろうかなぜ明るい色のだけが焼かれて、黒いのは焼かれないのかな、それにシャベルでストープに入れるほど、ごみ入れの中に捨てるために、ちょうちょを集めたんだろうか。

ダニーはそこに座ってこげたちょうちょを見つめました。ダニーの頭は、答えのわからない質問でいっぱいになって、くらくらしてしまいました。マーチン署長がどんなにみじめか、彼にはよく解りました。とにかく、ちょうちょはもどったし、中にはダメにならないですむのもあるだろう。クレスティューのふく面どろぼうが盗んだちょうちょも、同じように見つかるかな？同じように、焼かれてるんだろうか、もしそうだとすれば、なぜだろう。

ダニーは大きな声でうなりました。ちょうちょはもどったけれど、なぜが解けるかわりに、さらに頭を悩ますなぞとなっただけでした。

(つづく)



せいと 聖徒の道 みち

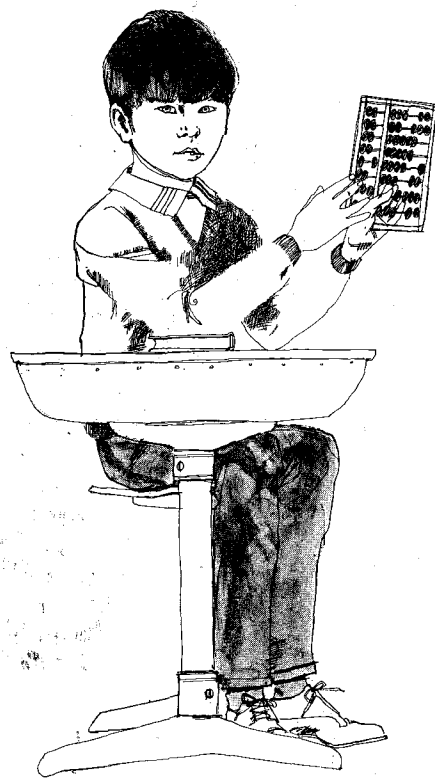
1969年1月号

こどものため



友だちをつくったソロバン

ゲイリー・ドーティー



「今度の新しい学校では、最初の日はよい子にしていなければいけませんよ」ユー・タンのお母さんはいいました。ユー・タンは、自分の両手を見てもらうためにあげると、お母さんに自分の耳をのぞきこませました。お母さんは、彼にペンと紙をわたしながら、にっこりしました。ユー・タンは小さなそろばんを取り出しました。それはチュー・リーおじさんが、ユー・タンと家族がアメリカに来る時にくれた物でした。「新しい国で、これは君の魔法になるよ、そして、きっとこれが新しいお友達を作ってくれるよ」とおじさんはユー・タンに言っていました。ユー・タンは学校に近づくにつれて、とても心配になってきました。他の子たちが、自分を好きになってくれて、仲良くしてくれたらなあと思いました。「もし君が親切にすれば、人もきっと君に親切にしてくれるよ」と、今朝、お父さんはいっていました。ちょうどユー・タンが学校にむかって歩きはじめたときに、彼と同じくらいの大きさの金髪の少年が、フットボールのボールをとるため

に走ってきました。彼は、ユー・タンにすごいスピードでぶつかったので2人とも大の字に倒れてしまいました。その少年は立ち上ると「ごめんなさい、君だいじょうぶかい？」といました。「お早よう、ぼくはだいじょうぶだよ」とユー・タンは洋服のどろをはらいながら答えました。「ぼくはトミー・ハッチャー」とその少年はにこっとわらってユー・タンの紙をひろうの手つだいました。「君は、ここへは初めて？」「うん、今日が初めてなんだよ」そろばんをひろいながら、ユー・タンは答えました。「僕の名前は、ユー・タンです」「ねえ、それなあに？」とトミーはそろばんを指さしました。「これはぼくのそろばんだよ」とユー・タンはいいました。ユー・タンには、トミーがなぜそろばんを知らないのかわかりませんでした。「何に使うの？」「算数の問題をとく時にき」とユー・タンはいいながら、トミーが自分のことを、かかっているのかと思いました。トミーは笑って「君は子供なんだね、何年生に入るの？」「お父さんは、5年生に入っていました」とユー・タンはていねいにいいました。それはとてもユー・タンをまごつかせました。なぜなら、香港では学年生がなく、年齢によって別かれていなかったからでした。「ぼくもだよ。いっしょに来たまえ、ぼくたちの教室まで案内してあげるよ」と、トミーはにゅと笑いました。「ありがとう」それからトミーは「それにぼくは、君が計算をそれですというたらウィルソン先生が、どんな顔をするか見たいしね」と笑いがらいいました。トミーは、ユー・タンを連れて長い廊下をわたっていきました。「ここがぼくたちの部屋だよ」、トミーは、戸を開けると、ユー・タンを前の方へつれてゆき「ウィルソン先生

新入生のユー・タン君です」ウィルソン先生はユー・タンにわらいかけながら「まあはじめまして」ちょうどその時、ベルがなって、男の子や女の子たちが、ガヤガヤと戸びらの方へいきかけました。「皆さん、静かに席について下さい。新しい生徒を紹介しからです」誰もが、ユー・タンをみて親しそうに、笑いました。ユー・タンは部屋の前の方へ立って、とてもはずかしいと思いました。「こちらはユー・タン君です彼は、中国から来ました」先生は、ユー・タンの方をみて笑いながら、「あなたはきっと、私達と仲良くなれると思うわ、それに、中国について何かおもしろい事をきけるわね」その朝は、ユー・タンにとって無事にうまくゆきました。だんだんとみんなになれてゆくのを、自分でも感じました。そして、いつでも誰かが笑いかけるとすぐに自分の方からも、ほほえみ返しました。お父さんのいった事は、正しかったわけです。だれもが、とても親切そうでした。休み時間には、みんなはユー・タンのまわりにあつまって、いろいろな、質問をしました。そして、ユー・タンに「フォー・スクエア」(ボール遊び)のしかたを教えました。休み時間がおわるとすぐに、ウィルソン先生は「計算の時間ですよ」といいました。生徒達は机の中から本をとりだしました。ユー・タンは机の上にそろばんをおいて顔をあげると、トミーが彼の方をみて、にやにやしていました。ユー・タンは、なぜトミーがそろばんをとりださないのかふしぎでした。しかし、トミーに笑いかえただけですぐにウィルソン先生の方を見ました。先生は黒板に「2679×86」という問題を書いていました。ユー・タンはその問題を、とてもはやくやってしまい、ウィルソン先生がふりかえると、手を上げ

「やれやれ、また起きたね」と息をはずませました。

ダニーが新聞に目を通すと、第一面に太い黒々とした見出しで、「ちょうちょどろぼう クレステビューに現われる」と書いてありました。「きっと、この博物館のちょうちょを盗んだのと同じどろぼうに違いない」とダニーが叫びました。カーステアーズ氏はむっつりとして、うなづきました「読んでくれないか、めがねを持ってないもんでね」ダニーは大きな声で読みました。それには、簡単に次のように報じていました「その朝、クレステビュー博物館が開かれるとまもなく、黒いフードをかぶった一人の男が事務所に入ってきて、事務員にピストルをつきつけました。はっきりしないが、うなるような声で、そのどろぼうは、アルブライト氏の収集品のちょうちょ全部を要求しました。女性達が、おさいふを出し、男性が札入れを取り出すとどろぼうは荒々しく首をふって「お金は自分で持っている、アルブライトのちょうちょが欲しいんだ」と、かみつくようにいいました。ちょうちょが、どろぼうに手渡されると、覆面をしたどろぼうは、博物館の館員を地下室にとじこめて、ドアにカギをかけ、変った品物をもって逃げて行きました。「記事はこれで全部ですよ」とダニーは読み終えました。「ねえ君、そのどろぼうはきっと向う見ずな性格に違いないね、なぜこの博物館でやった様に、夜にこっそり忍び込まなかったのか不思議だなあ」「クレステビューはここよりも、もっと近代的な設備だし警備もよくできているよ。どろぼうよけの警報器が故障しないかぎり、どろぼうは建物の中に入れないかと思うよ。ちょっとどろぼうがまたここに来るんじゃないかと思うとこわいよ。そして、今ではもうそのどろぼうは、人をピストルでおどしにかか

っているし、アルブライト氏のちょうちょに何か人をそんな行動にさそうようなところがあるのだろうか、やれやれ……」まさにつぎの日、まだ誰もがクレステビュー博物館の大胆な昼間のどろぼうについてさかんに、話している間に、不可解なその事件は新たな進展を見せていました。ブリクストン博物館の盗難で盗まれたちょうちょは再びその姿をあらわしたのです。ちょうちょは町のごみ捨て場のごみ入れのいたるところから発見されました。署長のマーチン氏は、カーステアーズ氏に電話して、それを知らせました。つけ加えて「うちの署員が、手掛りを調べた後で、発見されたちょうちょをお持ちいたしましょう。かなり形がくずれてしまったのもありますけど、たぶん、何か助けになると思いますよ」といいました。「署長、そりゃいい話だね、ぜひさがしてもらいたいね、それによって事件を引き起した犯人を見つける方法がわかるだけでもいいと思っているんだよ」とカーステアーズ博士が答えました。「私もそう思いますけど、卒直に申しあげますとどうもあぶないようです。我々のあつまっているこのどろぼうは、かなり悪がしいようですからね」と署長は答えました。ダニーは、その場に居合わせなかったので、事件の最新の進展を知りませんでした。彼はその日は、出かけていました。パット、パム、ダニーの3人がサイクリングからもどって、ブリクストンの近くに来た時、パットが「君は、博物館に寄るつもりかい」と聞きました。ダニーはうなづいて「した方がいいと思うんだ、とにかく、あそこまで行ってみなくちゃ、カーステアーズ氏がきっとぼくにたのみたい事があると思うんだ」「まだ早いんじゃない。ちょうちょの仕事が続けられると思うの」とパムがいった。「そうだ、今思いついたんだけど、ダ

ちょうちょどろぼうのひみつ



これまでのあらすじ

3人の若者達、ダニー、パット、パムは博物館からちょうちょのコレクションを盗まれたアルブライト氏が本当は、悪者だったという事実を発見しました。またアルブライト氏の30万ドルがなくなっていたこともわかりました。新聞の切り抜き記事にはアルブライト氏は階段から落ちて死んでいた、そしてそれは事故ではなかったということ伝えていました。アルブライト氏が死ぬ前にいったモルフォという名前が、かげの共犯者でちょうちょどろぼうかもしれないのです。アルブライト氏の家に入る機会を得るために、若者達は不動産の代理店をしているパムとパットのお父さんに頼んで窓を洗ったり、家具のほこりを払ったりするために、アルブライトの家に入るのを許してもらいました。となりに住んでいるベントン氏は、3人を家に入ると、部屋から部屋へとずつついてまわりました。3人はベントン氏にモルフォのことをきい

再び事件発生!

ミューレイ・T・プリングル作
チャールズ・キルター 絵

たけれども、何も知らないという返事が返ってくるだけでした。書斎には、アルブライト氏の書いた豪華な青いちょうちょの絵がありました。

第四章 再び事件発生

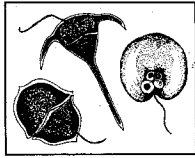
その後数日は、何事もなく過ぎて行きました。ちょうちょどろぼうに関しては、何も情報がなく、警察も誰をつかまえたとも発表しませんでした。これはおそらく、警察が何も新しい事を見つけていないことを意味していました。ある意味で、ダニーは博物館での仕事に熱中できたので、よろこんでいました。彼はいっしょうけん命に働きました。その結果、ダニーは、なん百ものちょうちょを標本にする準備をしました。「ダニー、こっちへ来て、箱をいくつか動かすのを手伝ってられないかなあ」と館長がいました。

「ええ、いいですよ」とダニーは椅子の背にかけて置いた上着をとるために、手をのばしながらいました。カーステア博士は、毎日配達されている午後の新聞をひろうためにホールのはしの小さなテーブルのそばで、立ちどまりました。見出しをじっと見みつめると彼は顔をまっさおにして

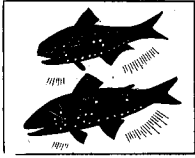
ました。「はい、ユー・タン」 「答えは、230,394です。」ウィルソン先生は少しびっくりした様な顔をしました。「まあ、その通りよ、だけど、どうしてそんなに早く計算したの？」ユータンはそろばんを上あげながら、うれしそうに笑いました。「ねえ、ユー・タン、ここではそれは使わないのよ」とウィルソン先生はいいました。トミーが笑い出すと、他の生徒達も一緒に、どっと笑い出しました。ユータンはとてもまどついてしまいました。それから、みんなが自分のことを笑っているのだと思いました。そろばんをひたたくと、部屋からかけ出して行きました。「待ってちょうだい、ユー・タン」とウィルソン先生が呼び止めました。しかし、ユー・タンは建物から、かけ出して行き、安心できる場所へつくまで、足をおそめることをしませんでした。お母さんは、彼が入ってくるとびっくりして「ユー・タン、もう学校は終わったの」と聞きました。彼は泣きたくなくなったけど、お母さんの前で泣くには自分は大きすぎると思いました。「あんな学校にもどるのなんかいやだよ」と大声でさけぶと自分の部屋へ走って行きました。お母さんはドアをたたきながら「ユー・タン、それはどういうこと、なにがあったの」「お母さん、ひどいよ、みんながぼくのこと笑うんだ。それに先生までも笑うんだよ」とユータンはお母さんにあったこと全部を話しました。「それは、ただのごかいだと思いませんよ」となぐさめながら「あす、お母さんがいっしょに学校にいて、先生にお話してみますからね、すべて、うまくゆきますよ」とお母さんはいいました。その日の午後、おそくなってから、ドアをたたき人がありました。ユー・タンがドアを開けるとウィルソン先生とトミーがそこに立って

ました。「ユー・タン入ってもいいかしら」とウィルソン先生が聞きました。ユー・タンは2人にていねいにしなければいけないと思ったので「どうぞ、お入りください。お母さんをお呼びに来ます」といって、ウィルソン先生とトミーをお母さんに紹介しました。「ユー・タン、私達2人とも、あなたにあやまらなければと思っているのよ。そろばんを使ったのをちっともおこっていないのよ、よく考えもしないで、それをいったことを自分でもあきれているの」とウィルソン先生はいいました。「僕もごめんね、君がそろばんで問題をとくのがおかしかったんだと思うよ」とトミーもいきました。ユー・タンの目を見つめて「だけど、そうじゃないんだ、ユー・タン。君の気持をきずつけるつもりはなかったんだ……ぼく達お友達になれたらなあ」ユー・タンはおじぎをして「ぼくも悪かったんです。お母さんが、それはただのごかいだといっていましたけれど、その通りですね、ぼくも君とお友達になれたら、とてもうれしいよ」「ところでユー・タン、私から一つお願いがあるのだけど」とウィルソン先生はいいました。「あなたの同級生は皆、ほとんどそろばんを見たことがないのよ。みんな、あなたが、あまり早くそろばんを使うのでびっくりして笑ったのよ。どうゆうふうにするのか、あす、そのそろばんを学校に持ってきて教えてくれないかしら」「そうなら、とてもうれしいなあ」とユー・タンはにっこりしました。

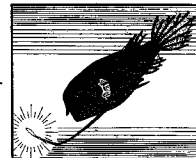
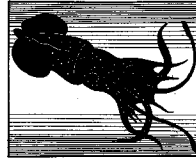
チュー・リーおじさんのいった通りだ。ぼくのそろばんがお友達をつくるのを手つだってくれたんだ。と考えて、ユー・タンはもう一度ほほえみました。



うみのふしぎ



ジョアン アンドレ ポーター



「海の深いところで、光をだすものたち」みなさんが大きくなりたいようころせん（太平洋航路線）にのって海をこうかいしているとかがえてごらんさい。夜もだいぶふけて、空も海もまっくらです。

とつぜん、まっかな光が海いちめん、なんキロもひろがります。またあるときは、まるで天から星がおちてきたかのよう海ひょうめんが、青いひばなをきらめかせることがあります。そして、まもなくその船はまっすぐに、たくさんのかやく光のかたまりの中すすんでいくように思えます。じっさい、みなさんがながめるところはほとんどどこでも、つなや板ぎれや、雲や白、青、緑にかがやくかじなどがみえるでしょう。この、海の水の中でうずをまいている、びっくりするような光は、みなさんがその光で本をよむことができるほどあかるいのです。

この海のふしぎは、おとぎばなしではなくて本当のことなのです。では、この水のふしぎについてせつめいをしましょう。

何千何万という海のいきものたちは、じぶんの体のなかに光を作りだすことができるのです。そのどうぶつたちの体の中にある、あるものと、海の水の中にあるさんそとがむすびついたときに、光がでるのです。りくにすんでいるほたるも、おなじようにして光をだしています。ふしぎなことにはほたるのひかりも、海のいきもの光も

あんなに光っているのに、まったくつめたいのですよ！

海のふかいところにすんでいて、光をだしているものの中で、いちばん小さいのがダイノスです。ダイノスはとても小さいので、何百万とあつまって光っている時でなければ、けんびきょうなしで見ることが出来ません。ダイノスがあつまって、光る時には、まるで光のくものようになってあらわれます。全部のダイノスの体からは小さなべんが出ていて、およぐのを助けます。いろいろな形をしたダイノスがありますがその中の3つのかたをここに出してみました。

（えの1）あるダイノスはゆめのようにつくしい貝がらを身につけていますが、なにも身につけていないダイノスもいます。

ダイノスには、光をつくりだす力とおなじように、もう一つふしぎなことがあります。それは、ダイノスがしょくぶつであるのか、またはどうぶつであるのかをかがく者たちが決められないでいるということです。ダイノスはどっちつかずのおかしいきものということができるといえます。しょくぶつとおなじようにダイノスもおひさまの光と水をたべ物にしています。けれどもどうぶつのように、ほかの海のしょくぶつをもたべるのです。

海のもっとふかいところのあちらこちらに「ちょうちんうお」とよばれている魚がすいすいとおよいでいます。（えの2）

この8センチほどのきれいなお魚たちは

7月4日のどくりつきねん日をおいわしているのでしょうか？ みなさんは「ちょうちんうお」の花火のはなやかなショーからそんなことをかんがえたかもしれませんね。「ちょうちんうお」は自分の体にずらっとならんでついている、光のボタンのれつをとくべつなやりかたで光らせることができるのです。このとてもふしぎなくみは、はんしゃきょうがついているちょうちんにどこか、にています。「ちょうちんうお」は自分たちの本当のなかまを見つけてたしかめるために光を出しているのかもしれない。たぶん何人かのせんもんかが考えているように、かれらにはおいしいお食事をするために、他の海のどうぶつをひきつけようとして、自分の光を使うこともあるのでしょうか。光をいっぱいにかがやかせた「ちょうちんうお」といったら、まったく胸がどきどきするようなながめです。しかもたくさん「ちょうちんうお」は光っていないときでもとてもきれいです。かれらの体の色は、銅、銀、こい青、おまけにピンクや緑色までついでいて、そのきれいな色がきらきらとくすかに光っているのです。いかはたしかにきれいないきものではありません（えの3）。10本ものくねくねした長いうでをもっているの、いかを見たほかの海のいきものたちはびっくりしてしまにちがいありません。海の深いところにすんでいるたくさんのかはとてもとても大きくなります。いままでにみつかった物の中でいちばん大きいのは1メートル70センチもありました。いかはほとんどのばあい、とても早くおよげるおかげでけんから身をまもっています。

早くおよがない時にはしよっかくからインクのようなえきたいのえんまくをはきだしてにげるというやりかたもあります。あらいかは、てきをめくらにし、おどろかせ

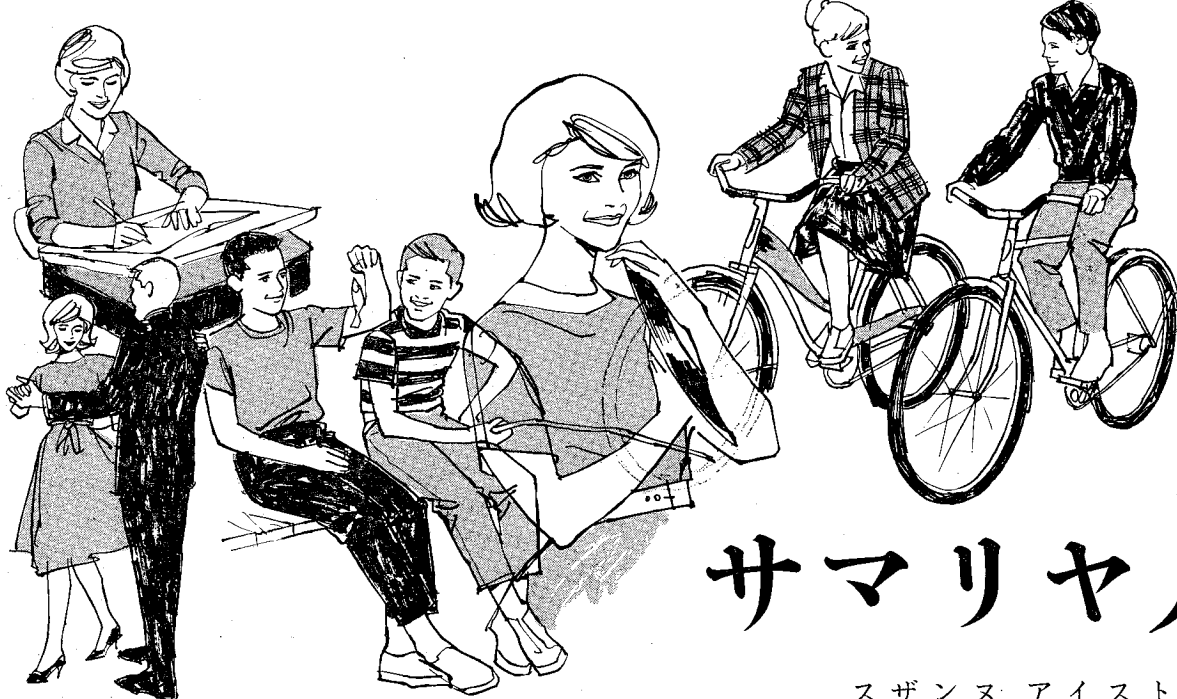
こんらんさせてしまうほど、まっかに光るえきたいを出すこともできます。

そんなに、早くおよぐことができない、のろまないかは、光を出すしかけにたよらなければ、きびしい海の世界で生きていくことができません。えものをみつけようとしてせかせかとおよぎまわるかわりに、のろまないかたちはきれいで、あんぜんで、すみごちのいい「やすみば」をみつけます。それから、光を出してまちます。まもなくたくさん小さな海のいきものたちがこの光にこうしんをそそられて、何がおこるのかを見ようとおよいでいます。

さあ、これでなまけもののかさんたちのお食事のよういできました！

この太った、小さな魚の体につぎおがあるのでしょうか？（えの4）

ええ、本当についているんですよ。つぎおが体からはえているだけではなく、その先に光るにせのえきがついているのです。この魚が「さかなつりをするさかな」（ちょうちんあんこう）とよばれるのもあたりまえですね。なぜってちょうちんあんこうは本当に他のおさかなをつる魚なのです。ゆれてかがやいている光のえきは他の魚がくいつきたくなるようにきそっています。ほかの魚たちはそれがおいしいごちそうだとおもうのです。ちょうちんあんこうのほかのしゅるいのものはとても大きいなので、自分よりもっと大きい魚のみこんでしまいます。ある形のは海のひょうめんから、海がもをがつがつたべてしまうことでもしられています。世界中の大きな海の深いところにすんでいる、光をだすものたちやそのほかにたくさんのか、こえびやくらげやみみずなどが、海でのせいかつを、おもしろくて、みりよくてきで、光かがやくふしぎなものにしているのです。



サマリヤ人

スザンヌ アイストーン

晩

秋のある朝、突然氷の張った日がありました。それは日曜日の朝で、私は道路に張った氷を注意してよけながら車を運転して教会に向って行っていました。車の中は暖かくなって、新しい道を軽く振動しているエンジンのリズムに合わせて陽気に歌いながら走っていました。はく息がフロントガラスに霜を結び冷たい模様を描いていました。

赤信号で止まってはじめて私は、車の前から立ちのぼる大きな雲のようなものに気がつきました。

「まあ大変、故障だわ」と思いました。私は曲り角に車を寄せて、外へ出ました。ボンネットを開けて、エンジンをのぞきこみましたが、こういう場合には、ラジエターのフタをとることしか知りませんでした。それは、パパがそうするのをこれまで何度も見ていましたから。

そのフタはとても熱くて、なるべく早くとろうとしてまわした時、指をやけどしてしまいました。蒸気と熱湯がしゅーとほとばしって、もうすこしで手首にかかりそうになり、寒い空気の中に大きく湯気が広がって行きました。

「まあ、どうしよう」新たな不安がつって、涙があふれて、ほほを伝いました。車は速度をゆるめて通り過ぎて行き、通行人がのぞき込んでいました。日曜日の散歩を楽しむ人もポケットにしっかり手をつっこんだまま、こちらを見ながら通り過ぎて行きました。

「ああ、こまったわ」私は車に入って、頭をかかえ、何度も同じ言葉を泣きながら言っていました。教会では待っているはずだった。私はどこにも出かけていないことになっていましたから。

しばらくして、誰かが窓をたたきました。

「何か手伝いましょうか」

「はい、お願いします」と感謝してうなづきました。

十代の少年がガラス越しにじっと見つめていました。長い金髪が目もかくれんばかりにおおっていました。彼はちょっと身震いして、細い指で明るい紫色のスクールカーディガンのボタンをとめていました。彼は、デニムのズボンと飾りの

ついたカウボーイ靴をはいていました。

「どこが悪いのかわからないの」と私は、車から出ながら話しました。蒸気を吹き出したのです」

彼は車にのしかかって、ボンネットの下をのぞき込んで、ラジエターをさわりました。

「どこへ行こうとしてたんですか」彼は、手をズボンでふいて、私の泣きはらした目と涙のすじのついたほほを見ながらたづねました。

「教会なの、本当は今ごろ、聖歌隊で歌っているはずなの」

彼は、「教会」という言葉に眉を少し上げて、ほほえみましました。

「ええと、どうやらラジエターが凍っていたようです」またボンネットをのぞきこんで、「水が通らずに、加熱されて沸騰してしまったようですね」彼はあたりをすこしつづいてから身体を起こして、私を見ました。

「しばらくラジエターに毛布をかけて、もう少し水を入れたら万事OKですよ」

彼は自分の明るく塗った古い型の車から毛布をとり出して、ラジエターとボンネットにかぶせました。

「ここからしばらく行ったところに、ガソリンスタンドがありますから、そこで水をもらって来ます。ほんの二、三分しかかかりません」

車のエンジンをかけて、曲がりかどをうなりを立ててとんで行きました。タイヤがかすかにキューッと音を立てて行きました。

間もなく彼はカンに水を入れて戻って来て、ラジエターに水を入れてくれました。彼は私がエンジンをかけるまで待っていてくれて、教会に着くまで後をつけてきてくれました。そして、警笛を鳴らして、手を振って行ってしまいました。

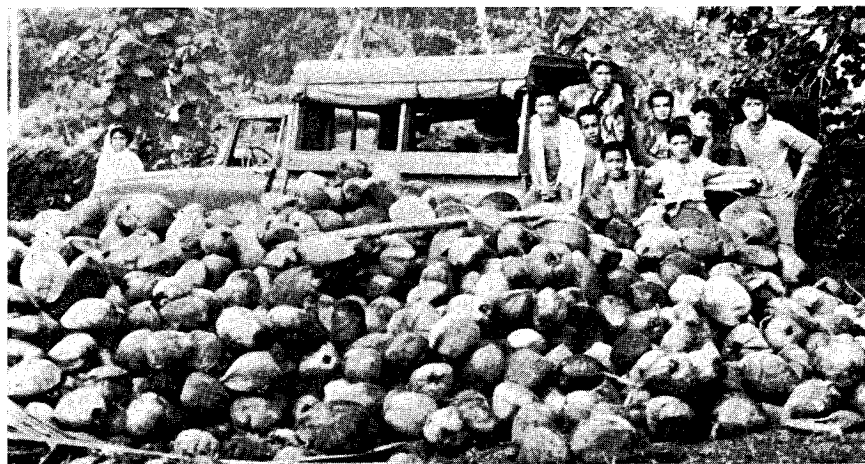
「あっ、待って！」私はやっと気がついて叫びました。

「私はまだお礼も言ってなかった」でも、どうやって、あの親切なサマリヤ人にお礼をしたらいいのかしら。

愛の働き

「あなたが予言者デビッド O. マッケイを愛し、尊敬した時、あなたがたの教師エドウィン L. カマーハは、それを表現する素晴らしい考えを発表した。それは、あなたがたも当然手伝いたいと思うものである」

これは西サモアのアピアの40人の生徒たちが先生と一緒に集まって、マッケイ滝の付近を美しくするため、すすんで働いている写真である。そこには、マッケイ大管長のために建てられ、その名をつけた記念碑があった。YMMIA中央管理会補助のジョージ R. ヒル Jr. は、彼の訪問を記念して、本土から真鍮牌を手配した。少年たちは、レクリエーション公園にあるプールまで路を切り開いた。彼らは、その路をマッケイ滝まで、そこを訪れるたくさんの人々が安全に行けるように、作り直した。少女たちはタロイモを植えさらに、緑の美しい神聖な場所に通ずるかわいた安全な道を作るために、砕いた石を集めた。



ある夫妻の回顧

私たちの改宗

エドワード・プライン兄弟はトレントン
(ニュージャージー) ワード部で図書館員
として働いていたが、昨年逝去された。

エドワード・プライン

私達は教会を求めているということを知らなかった。私達はニューヨーク世界博覧会のモルモン・パビリオンで上映されていた映画を思いがけなく見てその教会を知ったのである。おそらく異常なほどの好奇心があったと思うが、もともと妻のロゼアンヌと私は他のカップルと同じであった。他の人々と同様に私達も三つの問に対する解答を得たいと思っていた。つまり、私達はどこから来たのか？これからどこへ行くのか？ここで何をしているのか？すべての人々がこれらの質問をいろいろな形でたずねたにちがいないと確信している。私達の場合もそうであるが、多くの場合、ことさら口に出しては言わなくとも、心の中では何度もその問をくりかえしていたのである。

世界博覧会でのその映画の焦点は我々が関心を持つ質問に合わせられていた。その館を出てから約半時間ほど、私達の関心を引いた映画のメッセージを信じることができるかどうかについてお互いに話し合った。そのメッセージを信じるだけでなく—それはすばらしい信念にちがいない—むしろ信ずべきものだという結論に達した。

その館の観覧者名簿にサインしておいたので、その後、長老達の訪問を受けてからその教会が世界に語りかけているメッセージについて一層よく知ることになってきた。私達はついに1964年9月19日にバプテスマを受けた。

近所の人々は私達を末日聖徒としてどのように受けいれているだろうか。私達はめったに宗教について論ずることのないむしろ宗教には無関心なある種の世界主義的な環境に住んでいる。しかし私達は教会に加入していることをかくしてはおかなかった。そして隣人はコーヒー、茶、タバコ、アルコール類に対して、かくも断固たる意見を公然と表明している教会に私達が自主的に加わっていることに驚いている。私達の住んでいる地域では、これら四つのものは頻繁に使われており、近所の集まりにはほとんど欠かせないものになっている。しかし近所の人々は、私達とその信仰を受け入れ、相変わらず友情と隣人関係を続けてくれた。

私達は教会の会員であることを誇りとし、同じく教会の会員となるべく選ばれたことを誇りとしている。私達は教会の歴史を読みかつ研究して、人々が福音のために払った犠牲を知った。これは軽々しく受けとることのできない財産であり挑戦である。

監督は、私達が教会の責任を果たすのに十分なほどの強い証詞を持ったことがわかるとすぐに、私達に仕事を与えた。



妻は、はじめ日曜学校の図書係に、次いで日曜学校書記になるよう頼まれた。私はボーイスカウト委員、日曜学校会長、長老定員会書記などとして働いた。

教会に加入してからというもの、私達の生活に多くの目立った変化が起こった。おそらくほとんどは私達にだけ特有のものだった。もっとも重要なものの一つは、以前には全然知らなかった平安と満足を見出したことだった。はじめは教会の会員達に呼びかけるのに、いやいやながら兄弟とか姉妹という言葉を使っていたが、あとになって私達が、現在と永遠の結び固めのために神殿に行ったとき、兄弟姉妹という言葉の持つ真の意味を知った。その日神殿にいた人々は、2人の来訪者を助けるために、個人的な事情をすべて犠牲にした。

それから、神殿から帰って二ヶ月して私は重い胸の病気にかかった。ワード部の兄弟姉妹たちは、あらゆる面で私達を助けてくれた。芝生の草を刈り、家の塗装をし、家事を手伝い、食事の用意をしてくれた。そういったことは私達がみな兄弟なのだという感じをもたせた。兄弟という言い方の範囲はわからなかったが、実にはっきりしたやり方で示された。

私達の考えが変わった例は他にもあった。専門的な知識と技術をもっていて、どこでも引っぱりだこの男の人がいた。しかし彼はアルコールが好きで、飲みたいという欲望を満足させるために卑しい仕事をしていた。はじめ私達は彼を嫌っていて何かの集まりと一緒に彼も出席するようなことがあると憤慨したものだ。現在の心境は、ここに助けを必要としている人がいる、どうやって援助の手をさしのべようかということである。私達にとって、これは大きな心の変化である。

私達はまたどうすればよいお祈りができるかということもわかった。そして他の人のためにお祈りをするのがもっともよいことを知っている。これらのことは、私達が教会に加入してから学んだ、多くのことがらのほんの一部分にすぎない。それは本や試験管では証明できないけれども、真実であることを知っている。

私達の信仰の、実際的な試しは、私の胸の病気と共にやってきた。二人共その病気の間は何が起っているかを知っていた。病院の車が到着する前、数分の間、私達は語り合っただけで非常に恵まれているということに意見が一致した。私達は今も永世にもわたる結婚をしていた。たとえ引き離されてもそれはほんの短い間だけということがわかっていた。

病院では、私達がどのようにして喜びと満足を得ることができるかを他の患者と話合う機会がたびたびあった。ある日定期的に患者を訪問しているカトリックの司祭が来て、ソルトレーク市に行って神殿を訪問したことがあると語った。彼は教会の宣教師制度について質問した。誰が宣教師となっていくのか、そしてどのようにして宣教師は選ばれるのか、などであった。彼は、ほとんどの宣教師が伝道の費用を自分で貯蓄して教会には経済的な負担をかけないということを知って驚いた。

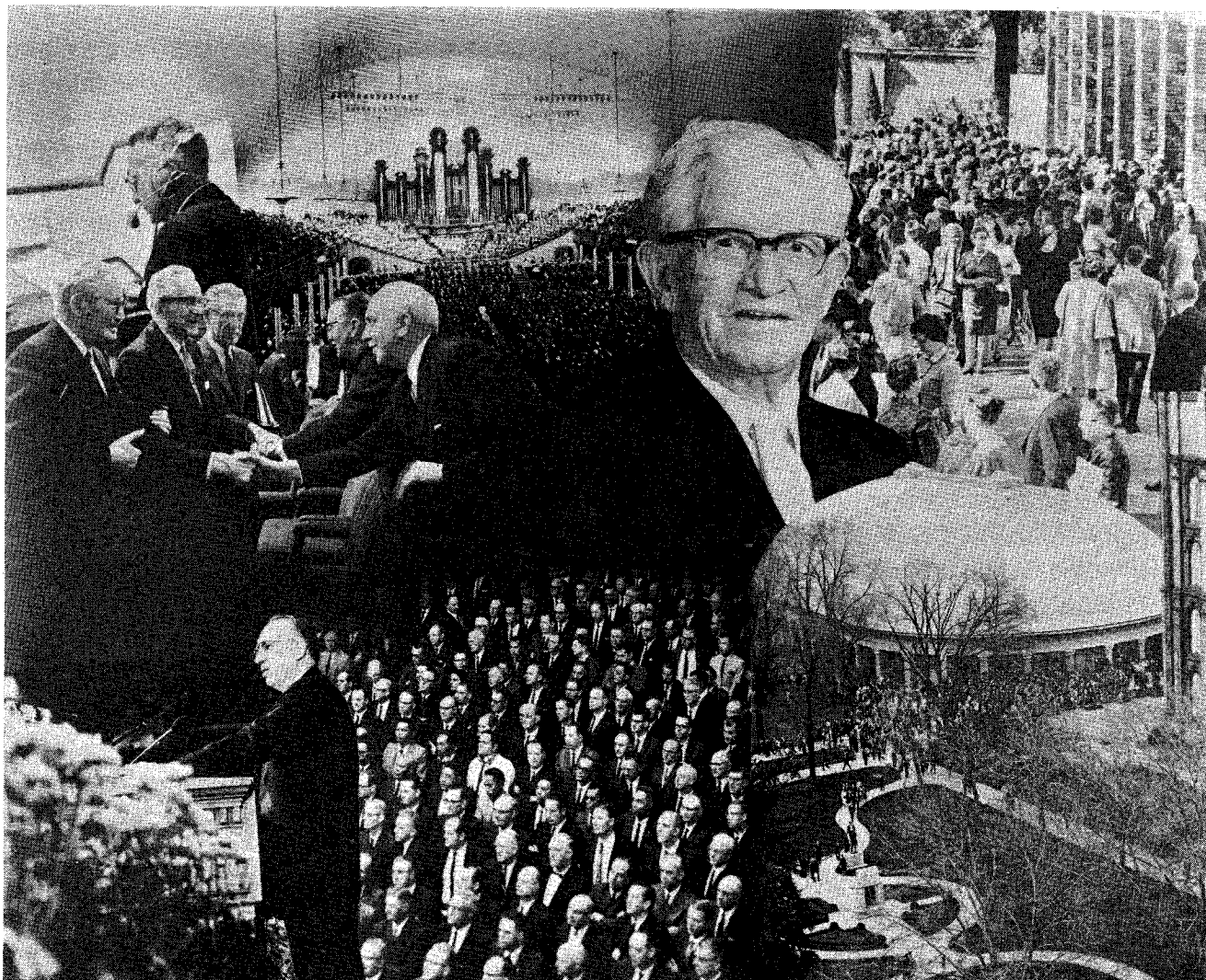
教会が我々にとっていかに重要かを言い尽すことはできない。生まれてから一生涯モルモンである人をうらやましく思う。しかし自分達が改宗者であることを喜んでいる。私達は教会外から得るものがきわめて少ないことを経験して知っているのである。

どれだけ払いたいのですか？

メルビン・L・ブレイン

人間が金持ちになれる方法はいろいろとある。またそれはいろいろの値段で手に入れられる。金持ちになるために自分の最も親しい人の友情を利用した時、誰がその値段をつける事が出来るだろうか。人間の健康と富を交換したとてその人はいくら得をしたというのであろうか？ 金持ちになるために徳性を犠牲にしてしまったら、その人はあまりにも高価な買物をした事になるのではないか、悪銭身につかずと言うがまさにその通りである。人生の目的が幸福を得ることであるという事がわからなくなるまで金銭に執着すべきではない。平凡な人々や偉大な人々によって、世界は進歩してきたが、かれらは真理を何よりも大切にしていた人々なのである。

我々は、金銭を追い回している内に、永遠の祝福が奪われてしまわない様に用心する事である。結局、やたらと金持ちになりたがっている人間は神との絆を失い、自分の金で自分を苦しめるために罰を買うことになる。



大管長基調演説

正義を愛し悪を憎む市民は
戦艦より強し

デビッド O. マッケイ

1968年10月4日金曜日、第138回半期総大会開会の部（ソルト・レーク・タバナクル）における
デビッド O. マッケイ大管長の説教（令息ロバート R. マッケイ氏による代読）

愛する兄弟姉妹、今朝この神聖な建物でこの大会を持ち、皆様にお会いできて私の胸は神の祝福に対する感謝に満たされております。このように恵まれた素晴らしい気持ちをこれ程強く感じたことはありません。

今日、ご出席の公官庁ならびに教育関係の指導者の方に、また遠方からわざわざご出席下さっている465余のステーク部及び84にわたる伝道部を代表する役員の方々に、この第138回半期総大会への歓迎のごあいさつを申しあげ、この大

会に終始主の「みたま」が我々と共にあります様お祈りいたします。私は年がゆくにつれて益々人生に驚嘆を覚え、これを楽しめる機会と祝福に深い感謝の気持ちを抱いております。

私は自分がこれまでに受けた数々の祝福について、感謝の気持ちを持って、述べてみることにいたします。

私は自分の立派な両親から受けた賢明で注意深い導きとしつけに対し感謝しております。「導きとしつけ」すなわち、私の両親は、私の活発で感じ易い青春時代に、賢明にしかもていね

いに私を導いて下さいました。もし両親のこのような導きがなかったら私は全く違った生き方をしていたかも知れません。

いつも注意深いしかも愛情あふれる母親と、素晴らしい父親に対し感謝と愛の念が年がゆくにつれて高まってまいります。

私は9人の兄弟と姉妹に感謝しております。その中の3人は今もなお健在であります。彼らは私に家庭の喜びを与えてくれました。これが今懐しい思い出となっております。彼らが与えてくれたものは両親の愛に次いで大切なものでした。

私はまた両親が多くの犠牲を払って私たちに教育を受けさせて下さったことに感謝しております。

教育を通じて私は生涯の伴侶にめぐりあい、彼女は私をこれまで常に励まして来てくれました。彼女は7人の子供達の賢明な指導者であり、我が美わしき家庭の心となって来ました。

私の生涯を全く変えた伝道の機会を与えてくれた教会と両親に、また友だちに感謝しております。真実と誠実な友情から生まれた心の平安と豊かさを経験する人は幸せであります。私はその意味で、誠実な友と同僚を愛しております。

何よりも増して、幸福な生活の源である福音に感謝しております。福音は私たちの生活を清くし、また全ての祝福をもたらします。

主の祝福と「みたま」の導きが世界各地の主の教会の上に確かにあることを信じ、これに感謝しております。また主の親しさと慈愛を深い感謝の気持ちをもって感じております。教会に時間と財産を捧げ、忠実に、全霊をこめて尽して下さる会員たちがいることがどれほど私の励みとなっていることでしょうか。教会堂がいずこにあるとも、このような会員の上にはいつも神の祝福と応えがあります。

什分の一や献納をされる会員、また教会の建築計画、福祉事業を援助して下さる忠実で信仰深い会員の存在は私の喜びであります。

私は生命(いのち)を愛し、私がこの世に生を受けていることを喜んでおります。

毎朝窓から東方の山々を見、美しい秋の空に太陽が昇るのを見る時、また私たちに命の水をもたらす雨を見る時にさえ生命を喜び、神の慈愛に感謝しております。

私は、我々がこの素晴らしい原子力の時代に住み、その業績に心から感謝しております。今日の自然科学の発見には想像を絶するものがあります。実に毎日毎日信じられない程の科学の成果を得ております。この素晴らしい時代はまだ始まったばかりであります。我々は日々研究が進むにつれて解かれ、展開する進歩を目のあたりにすることでしょう。私はこの様な科学的発展が破壊的なものでなく建設的なものであることを祈ってやみません。

我々は実に素晴らしい時代に生きております。私は善良かつ勤勉なこの国また世界の人々を信じ、物質文明が進歩しても「善」のみがこれにもたらされることを期待しています。

しかしながら、この時代が未来の偉大な可能性を有すると同時に危険に満ち満ちていることも確かであります。

現に、我々は日々起っている様々な事件を紙上に読んでおります。この様な不安と恐怖を起こす原因があることを認めないわけにはゆきません。犯罪の増加、法律の軽視を見るのは「ショック」であり「驚き」であります。

我々は周囲にある悪の力、特に策略、神の心に反する事柄また世の中の思想を弱化し滅ぼす様な事柄に無頓着になれないし、そうであってはなりません。人の行為や計画することが主の御意に逆らう時、我々は彼らに忠告し戒めを与えるのが当り前でありましょう。

今、私は若い時に覚え、これが私の思想に偉大な影響を与えた一つの聖句を思い出します。それは、「我が霊は汚れし肉体に宿らず」と云う聖句でした。私は少年の頃オグデンに行く途中父の側でバネの入った座席に腰掛けておりました。

私たちがオグデン河にかかる橋を通りかかった時1人の男の人が河の北側の土手にあるサロンから出て来ました。私は彼に見覚えがありました。と云うのは彼を舞台のステージで見たことがあり、彼のファンだったからです。しかしその時彼は酒に酔っていました。しかも、数日間その状態が続いていた様に見受けられました。

彼は我々を見つけると泣き崩れ、叫び、酒場に戻って酒にありつける様に50セントをくれと私の父にせがみました。我々が橋を渡ると父は次の様に云いました。

「デビッド、いましがたお前が見た人は我々のワード部の神権者として、会員の家を私と一緒に訪問してまわっていた人なのだよ」父はこのことについてはそれだけ云っただけですが、これは放蕩に対する警告として私にとって忘れられない言葉となりました。

この出来事があってからしばらくして私の先生がナイアガラ滝に向かってボートを漕いでいた若者たちの話を読む様に云われました。年数がたち、作者の名前、本の名前を覚えていませんが、この若者たちが愉快地にボートを漕ぎナイアガラ河を下り遂に遭難する物語を生涯忘れることがなかったのでここで皆さんにお話ししましょう。

彼らが酒に酔い騒ぎながら河を下って行くと、その前方に急流があるのを知っていて河岸で見ていたある人が彼らに向かって叫びました。「おーい、君たち、急流があるぞ！」しかし、若者たちは彼の警告を無視して「大丈夫さ」と答え、笑ったり、騒いだりしながら下流へボートを漕いで行きました。彼らが急流に近付くとまた叫びました。「おーい、急流があるぞ！」しかし、彼らは注意しようともせず進み、気が付いた時には急流の真ただ中におりました。彼らは全力を尽したがボートは転覆してしまいました。「だから、云わないことではないのに……」と警告した人は云いました。彼らは大きな悲鳴をあげ、のろいながら急流にのまれていったのです。

これは非常に印象的な描写で、先にも申しあげた様に、私はこの物語にひどく感動しました。

ある人が週刊新聞の欄で、当世の若者に対し次の様な警告をしています。

「青年がこれほど緊迫した空気をうけ、致命的とも云える影響をこうむった時代はかつてなかった。また青年たちが生きていくのに彼らの個々の人格がこれほど決定的に作用することも過去にはなかったことである。当今では12才の少年といえども取り返しのつかない汚れや、傷を負わないためには非常に強い性格を持っていなくてはならない。また少年期から青年期へ移る課程はちょうどふるいの様なもので適切な大きさを持たない者たちは誘惑と悪の罠にふるい落されてしまう。現在、若い世代の人たちが落伍する割合は驚く程高く、保護を必要とする世代ほどこの様な状態に置かれ易いのである。

現代の若者の社会は他の動物社会と同じ様に厳しい生存競争の法則に従っている。我々には青少年がハゲタカ、狼、寄生虫の様な麻薬業者、好色家、変質者、凶漢、狂信者、イデオロギーの誘惑者たちに襲われ、餌食にされるのを見て知っている。我々はいろいろな所で彼ら青少年が成長する前に墮落し、朽ち果てるのを見ているのである。

(エリック・ホフナー ソルト・レーク・トリビューン
1968年6月16日、日曜版)

岸辺に立ち、若者に向かって、「おーい、君たち、危険だぞ！」と叫ぶだけだったら簡単だが、流れまで漕いで行き、出来ることなら彼らと一緒にボートに乗り込み、友となり、説得し、さらに適当な方法で急流からボートを岸に引き返らせることは難しいことである。多くの人々は岸辺に立って叫ぶが、彼らの生活の中に入ってゆき、人格と人格を触れ、宗教にある真実を彼に感じさせることが必要なのであります。すなわち、これが人生の最も偉大なことなのであります。真の宗教生活ほど幸せと満足をもたらすものは他にありません。

汚れなき人は国の宝であり、清純な婦人は真に栄えある国の象徴であります。正義を愛し、悪をしりぞける一市民の方が一隻の戦艦よりも素晴らしい力を持っています。清純、誠実率直な人々からなる組織には常に正義に対する構えがあり、悪の近接に敏感であります。この様な理想的な市民となり模範となろうではありませんか。

我々は大多数の青年を信頼しているが、いかにその信頼が強かろうとも、この様に多くの非行者と犯罪が増えている事実を認めずにはられません。社会が道徳的雰囲気を持ち、福祉と民主政治を維持するには正しい治療薬を常用し、犯罪の原因を取り除かなくてはなりません。

犯罪増加の主な原因の一つに「家庭生活に対する失望」があります。すなわち、母親が母親としての責任を果さなかったり、子供を持ちながら道楽や名声のために子供を犠牲にするなど自分たちに与えられた最も大切な使命をしばしば放棄する母親がその例であります。

同様に、仕事、政治、社会の責任を果たすために息子や娘

をなおざりにし、妻と協力のない父親は家庭に楽しい雰囲気をもたらすことが出来ず、否定と不和、ひいては犯罪を生む協力者となってしまいます。

父親は優しい母親と協力し愛する子供たちの助けとなり、導きとなるべきであります。

父親は自分もまた昔はいたずらな子供であったことを心に留め、思いやりのある態度で子供に接し導いてゆかなければなりません。

家庭は理想的な社会生活、国家の有り方を教える最も良い場所であります。

今日のアメリカの家庭に必要なことは家庭にもっと宗教が取り入れられることでもあります。両親は真剣に真の教会について子供たちに言葉と行動で、はっきりと示さなければなりません。教会は、家庭について青少年を守る必要があります。

この世には我々の問題を解決してくれる強い力、宗教があります。

精神生活の向上と道徳は、自分の国のみならず他の国の安全と発展に貢献し、社会を建設する全ての人々の生活の基盤となります。

カルビン・クーリッジ大統領は次の様に述べています。

「国の政治が宗教の上に立つことは決してない。人の徳を法の力で置き換えることはできない。もちろん、我々は誤った行為を禁じ、法律と治安維持によりかなりの保護と安全を守ることは出来るが、今日の社会が求めている真の改善は我々が持つ宗教信念の結果として得られるか、さもなくば全く得られないものである。『平和』『正義』『博愛』『慈愛』を全て法律だけで得ることはできないのである。」

福音の原理は正しく、安全な道標であります。キリストは愛の光であり、その光により人は自分の道を良く見る事ができるのであります。この光が拒否される時、人の心は暗黒に迷い、いかなる個人、いかなるグループ、またいかなる国といえども、主の御言葉に従うことなく真の成功を得ることはできないのであります。

「イエスは、また人々に語ってこう言われた。『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、暗の中を歩くことがなく、命の光をもつであろう』」 (ヨハネ 8:12)

私はこの教会に属する若い人たちと世のあらゆる人々に神の實在と、神が我々と共にましますと申しあげます。神を信じ、熱心に求めて下さい。そうすれば、神はあなたの努力に報いて下さいます。あなた自身を神とその環境にゆだねて下さい。そうすれば心からの証を持つことができます。それはあなたの特権であります。この実感と証はただひたすらにこれを求める時のみ得られるのです。美しく、正しい生活をして下さい。自分の幸せのためではなく、他人のため、他人の幸せのために献身して下さい。

私がこれまでお話しした証をあなたがたが得られますようイエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

キリスト教を真のものとせよ

エルドン・タナー

(1968年10月5日、土曜日午前 第138回半期総大会における

N. エルドン・タナー第二副管長の説教)

我々の指導者、デビッド・O・マッケイ大管長の命により今朝このタバナクルで皆さんの前に立ってお話しする特権が与えられました。これからお話しすることが私たちの主、救い主イエス・キリストの教えにそうように心からへりくだってお祈りしながらお話ししたいと思います。

この大会に出席している我々には、使徒パウロがテモテに負わせたと同じ種類の責任があります。パウロはテモテに次の様に云っております。

「御言を宣傳伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。

人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれてゆく時が来るであろう。」(Ⅱテモテ 4:2~4)

「しかしこのことは知っておかねばならない。終りには苦難の時代が来る。」(Ⅱテモテ 3:1)

末日は今であり、主の予言は我々の目前で実現されつつあります。自己の欲望をむさぼり、真実から耳をそむけ、気に入った教えのみに耳を傾けるのです。その結果、我々は世界中で多くの試練を受けているのです。人間がかつて直面した中で最も困難な一時期にさしかかっているのだと思います。

多くの分野で活躍する重要な人々は現在の状態が遅かれ早かれ危険な時期に至るだろうと予想しています。

「何故この様に多くの争いと憎しみが国に、州に、大学に、田舎に、またグループにさえあるのだろうか。またこの不安と不信と争いが家庭の中にまで広がっているのは何故か。何故これが一般的な状態となっているのだろうか。誰れもが満足していない、現在の様な不幸な状態を正すため何をしなければならないのだろうか。」私はこれらの問題を考えながら答を求め、聖句を捜しました。御存じのように、聖書は福祉と末日の有様あるいは現代に対する忠告、警告、予言であるということが出来ます。

世界には、2つの相反するグループがあることに気づきます。その1つは生活と思想が物質的であり、キリスト教的思想を拒むだけでなく、攻撃さえする個人またはグループであり、他の1つは精神的、道徳的価値を少なからず心得ている人たちであります。

後者のグループはキリスト教文明人と称する人たちのことです。

しかし、悲しいことに当世ではこれらの人々がキリスト教精神をとらえるにすぎず、実際には、今日の多くの人はこれをとらえることさえしないことです。この問題を解決するには、我々がとらえるキリスト教精神を実行し、これを自分のものとし、生活に取り入れ、各自が神の独り子である人類の救い主イエス・キリストを受け入れることしかありません。

「この人による以外に救いはない。わたしたちを救い得る名は、これを別にしては天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒 4:12)

イエス・キリストは我々のために命を捧げただけでなく、はっきりと救いの計画を我々に与えました。永遠の命を得るためには神、イエス・キリスト、または神の予言者によって述べられた主の御言葉である真の教えに従って生きなければなりません。主の御言葉は次に挙げるような極めて大切な質問にはっきりと答えております。

「我々は誰れであるか
何処から来たのか
何故地上にいるのか
死後も生きるのか
生きた身体をもった神が存在しているのか
永遠の父なる神と我々はどんな関係にあるのか
世の救い主イエス・キリストは神の御子であるのか
昇栄と永遠の生命を受けるために何をしなければならぬのか」

これらの質問に対する回答を見出すために主の御言葉と予言者の言葉を古今を通じて調べ、考えてみることにしましょう。

我々が天父と共に霊界に在った時、神は生みたもう独りに話され、霊たちに立ちて云われた。

「われら降りて行かん、かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりてこれらの者の住まうべき地を造らん。而してこれによりて彼等を試し、何にてもあれ主なる彼等の神の命じ給わんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。」

(アブラハム 3:24~25)

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」(創世 1:27)

我々は誠に、神の霊の子供であり、神のかたちに創造されたことを知るのには大きな祝福であります。神とイエス・キリストは肉体を持った神であり、御二方は我々に非常な関心を持っておられます。

「神はその独り子を賜わったほどにこの世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである。」 (ヨハネ 3:16)

古今の聖典に云われているようにイエス・キリストは神の独り子であります。いろいろな機会で、神は聖典にある様な言葉で地上に住む人々にイエスを紹介されました。

「これは私の愛する子、わが愛子に聞け」

(マタイ 3:77, III ニーハイ 11:7, ジョセフ・スミス 2:17)

天父の霊の子として我々の内にある神性のひらめきを使って、主の戒めを守ることにより我々が神のようになることが出来るとイエスは教えておられます。

「あなた方は聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについて、あかしをするものである。」 (ヨハネ 5:39)

そしてパウロはローマ人に話しました。

「これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教えのために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって望みをいだかせるためである。」

(ローマ 15:4)

そこで再びイエスの御言葉を読んで見ましょう。

「永遠の命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることであります。」 (ヨハネ 17:3)

「もし私が死んだら、生きかえるのですか」という質問に答えてイエスは云われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」

(ヨハネ 11:25, 26)

人が永遠に墓にとどまることのないようにイエスは命を捧

げ、よみがえったのです。

イエスはまことに群集にむかって云われました。「わたしの父の家にはすまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう云っておいたであろう。あなたがたのために場所を用意して行くのだから。そして、行って、場所の用意が出来たならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」

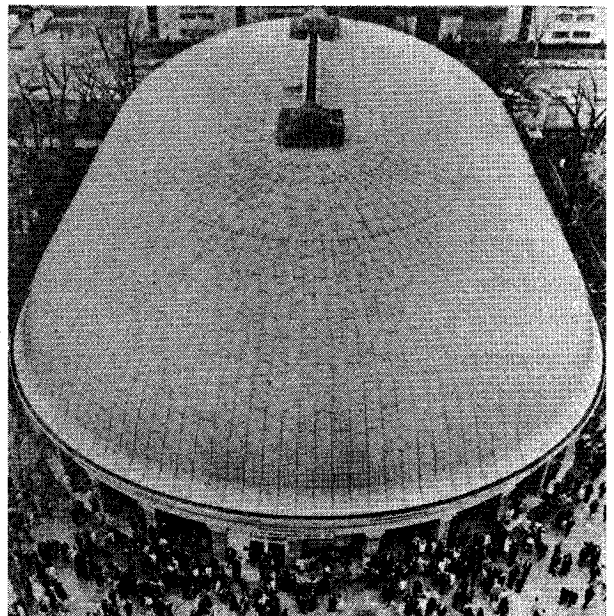
(ヨハネ 14:2, 3)

キリストの復活に関し、かつては、聖徒の迫害者であり、キリストを認めようとしなかったパウロの証詞、すなわち使徒たちとパウロ自身とその他何百人もの人々が、「そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと」(Iコリント15:4)の後のキリストを見たことを知っています。

永遠の進歩を得るための重要な段階として、復活を待ち望み、神と再会する準備をする人はなんと幸せなことでしょうか。

私の誠実で献身的な友であり、主の忠実な僕だったウィリアム・J・クリッチロー Jr. の告別式に出席した時、私は彼の妻と子供及び孫たちの落ち着いた態度に非常な感銘をうけました。彼らは文字通り復活を信じ、家族の再会を信じ、結び固めを教えられており、それを信じていました。そこで、私は、彼らと、このような信仰を持たず、真の教義を受け入れず、むなしい望みだけを求めている人々と比較してみました。復活を信ずることによって与えられる大きな喜びと満足と確固たる信仰を感じ、人々が理解することができるよう私は天父なる神の前に謙遜になって祈りました。

福音の真実について予言者達は反ばくしえない証詞を立てているにもかかわらず、なぜ人々はこの重要な真の教義を受



け入れ、耐えることがこんなにも難しいのでしょうか。その理由の中の明らかになっているものに次のものがあります。

第一に、サタンの影響であります。霊界において、宇宙が創造される前にさえサタンはその計画が拒否されたので主に叛いたのです。

神は云われました。

「これを以って、そのサタンわれに叛きて、人の自由意志を滅ぼさんとなせしにより……われ、彼を投げ落さしめたり而して、彼はサタンと成れり、実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を歎きだまし、以ってわが声に聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となすなり」(モーセ4：3～4)

サタンは正義の業を破壊しようと決心し、この地上で人の霊を滅ぼそうと世のあらゆる所をさまよいています。サタンはそのずるさとへつらいと密使により、人々に偽りの教義を教え、大成功を収めているかのように見えます。

共産主義者、イエスを否定する者、神は生きていないという理論を主張する者、同じ様に、無神論者や自称宗教指導者は誤った教義を積極的に教え、神と福音に対する信仰心を破壊することを述べています。そのため、主は、イエス・キリストの予言の実現について次の様に云われました。

「にせキリストたちや、にせ予言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行ない、出来れば、選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ 24：24)

また、科学や哲学のようなこの世的なことが広まると、人は自己満足におちいり、自分自身勝手な理解をし、神とは無関係だと考えるようになり、さらに神の存在を物理的、数学的あるいは科学的に証明出来ないならば、神とイエス・キリストを疑い否定すべきだとさえ思っています。そして、多くの教師は誤ったことを教え、聖徒を教会から去らせてしまいます。教育をうける目的で彼らに送られたはずの若い人々が彼らを権威者として受け入れ、その中の多くが神への信仰を失ってしまうのです。

哲学の学位をとったばかりの大学院のある学生が神とキリストへの信仰についていろいろ攻撃されたことについて私に話してくれました。この様な場合、彼らに立ち向うことがいかに困難なことか、特に家庭で神の教えを受けて育てられていなかったり、真理に対して確固たる証詞を持っていない若者にとっては、なおさらであります。

ある教授はこの様に云って彼を嘲笑しました。

「君は本当にバイブルやモルモン経典に書かれている擬古的なものを信じているんじゃないかね……」そして、その教授は彼を真理から遠ざけようとして、しばしば彼と話し合ったと云うことでした。

私は見せかけの知識を持った科学者や、真理を求めているはずの人が、神の教えや、宇宙の創造主、さらに御子イエスキリストを科学的に証明出来ないと言う理由で否定し、挑戦する、このような態度によって、厚かましくも自分を宗教の

権威者と称する人達を理解することが出来ません。

福音の真理と宇宙の創造主である神とその独り子イエス・キリストを権威ある方として受け入れ、説明不可能とも云うべき神に関することも信仰によって受け入れるの方がどれ程賢明なことでしょうか。彼は自分に理解出来ないことが多くあることに気が付くであります。

我々の周囲をとりまくささいなことでも理解出来ないのに、神をすべて理解出来ないからと云って、どうして神を否定し不信にいたる理由になるのでしょうか。

歯車の歯はどのような働きをするのか、空気とは何か、感情とは何か、霊が身体に入る時それが、肉体を離れる時何が起るのであるのか。いろいろな質問が我々の周囲にあるわけですが、復活を理解出来ないからと云って復活はないとか、あるはずがないとかどうして云えましょうか。

我々は次のように警告されています。

「心をつくして主を信頼せよ、自分の知識に頼ってはならない」(箴言 3：5)

「わざわざいなるかな、彼等はおのれを見て賢しとし、みずから顧みて、さとしとする」(イザヤ 5：21)

人間がつくった宇宙船で何千マイルも離れた空間で地球の囲りをまわっても、地上にある基地から正しい指令を受け、守ってこそ安全に着陸することができるのです。人間は、人を月に送り、月と地上に指令を交換する機器まで作ることができるのに、神が宇宙を創造し、神と連絡をとることが出来る事実をどうして信じられないのでしょうか？

神の国に帰るためには、我々と子供達がイエス・キリストの教えを知り、理解し、さらに生活に取り入れることが最も大切であります。これを理解するためには誰かが教えなくてはなりません。「どこで、どうやって教えられるのか」。福音や生命に関する霊的なものを学校で教えることは許されていません。

実際、多くの学校、特に大学では、前に述べたように神に対する信仰とイエス・キリストの教えが嘲笑されているのが現状です。

福音の教えは教会にまかせておくと云うのが一般的な態度であり、両親が子供かの子供か、また双方が教会に出席するそのパーセンテージは実に微々たる数にすぎません。そして、このように出席するわずかな人でさえ真の教会で、真の予言者を通じて救い主の正しい教義を教えられていません。

神は骨肉を持ち、人間は神のかたちに創造されたと云う正しい教えを一体いくつの教会が教えているのでしょうか。今日非常に多くの宗派が教えているような、骨肉も才能も、情熱もない神を信じ愛することがいかに困難なことか判るでしょう。

主の云われたように、我々の生活で最も大切な福音の真理は我々の家庭で教えられる必要があります。

またこれは主の御言葉であります。

「シオン、またはシオンのステーキ部内にて子供を有する

両親ならば、その子供8才の時、悔い改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。」

「また、両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」

(教義と聖約 68:25, 28)

両親の責任を助けるために主は予言者を通して話されました。

この末日において知恵の言葉として知られている啓示が予言者ジョセフ・スミスを通してこの世に与えられました。その啓示はタバコや強い飲物の摂取について忠告し、これに約束を与えられました。もし我々がこの知恵の言葉を思い出すなら、ハイウエイで起こる数え切れない程の事故、酔っぱらい運転はなくなるでしょう。また貧困も、家庭不和も少なくなりアルコール中毒もなくなり、これが引き起す犯罪も消滅するでしょう。またタバコによって起る肺癌、知恵の言葉に反して起こるすべての病気、苦悩と死もなくなるでしょう。

また次の約束もあります。

「およそこれらの言葉を憶えて守り、且つ行ない、この誠命に従って歩む全ての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。

また、知恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見い出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らにこの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して居ることなかるべし。」 (教義と聖約 86:18~21)

両親のみなさん、我々は世俗的なものに心を奪われることなく、子供達に救いの教義と模範と教訓によって教えて下さい。我々は子供たちに神への信仰と、主の独り子イエス・キ

リストは世の救い主であり、我々が復活できるように命を捧げられたことを教えずにはなりません。

現在、どれくらいが家庭が家族の祈りをし、骨肉の体もち、祈りを聞き、答え給う神に祈ることを子供たちに教え、他人を愛することの大切さをも教えているのでしょうか。

もし、すべての両親が週一度、家庭の夕べを持ち、子供たちに主の言葉を教えるなら、世の中はどんなにすばらくなるのでしょうか。

「偉大な律法」と云われるイエスの教えをすなおに受け入れ生きるとは、すべての人が平和に、幸せに住むことの出来る地上を造り出すことになるのです。

「イエスは云われた『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』これがいちばん大切な第一のいましめである。第二に『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』『これらの2つの戒めに律法全体と予言者がかかっている』 (マタイ 22:37~40)

そして、主はまた云われました。

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」 (ヨハネ 14:15)

もし我々が人を愛するなら盗んだり、殺したり、姦淫したり、偽りの証言をしたり、隣人に害をおよぼすこともないでしょう。

真に、永遠の父なる神と御子イエス・キリストと聖霊とを信じる人は祝福されます。

そして、キリストの贖いを通して律法と福音の約束に従うことによって救われるのであります。悔い改めをし、罪の許しを受けるためにバプテスマを受け、そしてイエス・キリストの教えを受け入れて生活して下さい。

私はこれらのことが真実であることをイエス・キリストの御名により証しいたします。 アーメン。

神の王国は永遠なり

ジョセフ・フィールディング・スミス

(1968年10月6日午前 第138回半期総大会における、大管長会
ジョセフ・フィールディング・スミス副管長の説教)

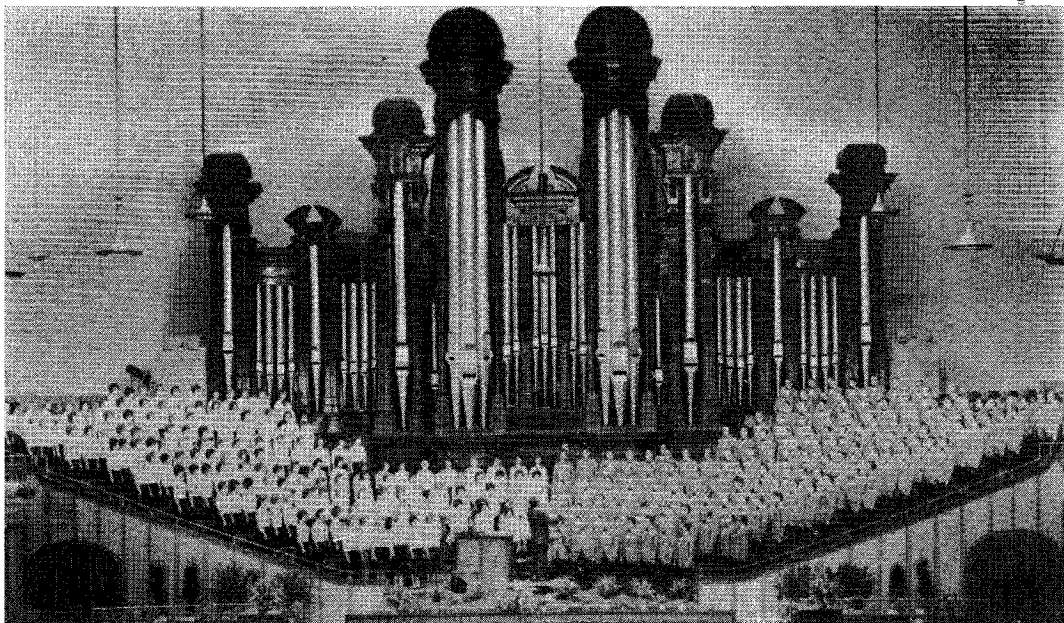
本大会において兄弟姉妹に相まみえる事は感謝に堪えないところであります。

私は真理のうちに生活していることを大いに喜びとしています。私は、主が慈悲と愛の御手と御守りを人々に賜わったこと、また1830年4月6日、教会創立以来、慈悲と祝福を表わされたことに日々感謝いたしております。

我々の使命は、人類の救いであり、悪より守り、高め、世に光と真理をもたらす、人々が神の御前に正しく歩むよう導き、日々神を崇め、己れの業の最初の果実を捧げさせることとあります。

いわゆるモルモン教とは、心から受け入れ従がう人々にとって、救いに導く神の力に他ならないと申しあげたいと思います。また末日聖徒とは、何処にあってもその名前と召しと福音に忠実である限り、真理、名誉、徳、清い生活、正直な商売、宗教に対し正直であり、神と神の義、真理、この世における、また人の子に救いをもたらす御業を支持する人々であります。

我々は何年もの間ずっと、人々にイエス・キリストの福音を知らせ、悔い改めと神の律法の要求に従うよう導く努力をして来ました。また人々の誤りを正し、悪を離れて善をなす



よう勧めて来ました。

イエス・キリストの福音とは、救いに向かわせる神の力であり、この力を現世で得るため、教会員は義の業に励み、神の誠命をすべて守ることが必要であります。そして、この教会の正しい契約の民は、大いなる者に高められ、やがて全世界がイエス・キリストを知って伏し拝み、力と栄光の中に再臨されるキリストを迎える備えをなす人々に気づくのであります。

平和のオリーブの枝をもたらず我々は、死者の贖いと生者の救いのために、この末日に示された主の律法と真理を人々に表わすのであります。我々は人の子らに対し、いささかの悪意や邪念も持ってはいません。むしろ聖徒の心は赦しの精神に満ち、敵に対する復しゅう心などは持っていないのであります。

彼らは、神が敵と我々を審くのであり、我々は敵を赦し、悪意は持たないと心に思っているのであります。

世界にあって、聖徒たちは確かに、一にぎりの民にしか過ぎないであろうが、しかし、救い主のたとえにあるように、やがて全世界をふくらませるパン種にたとえられるのであります。人は今や全世界に広まりつつある真理の大いなる教えに、偏見や個人的な欲望や願望をすてて、耳を傾けなければならぬのです。

福音の精神は人を義に導き、他人を愛し、その救いと昇栄のため努力させるものであります。また悪をすて善をなすよう励まし、罪を避けさせてくれます。この業の目的とするところは、現世と来世とに在っての人間の永遠の幸福なのであります。

神の「みたま」が結ぶ実。すなわち真の宗教の結実は、平和、愛、徳、誠実、そして、主のすべての律法への忠実であります。ガラテヤ書の5章には、神の「みたま」の結ぶ実と世俗の精神の結ぶ実の相違がはっきり示されています。

これこそ、いわゆるモルモン教と、世の神学との大きな相違の一つであります。その命に従い、その原則を生活にとり入れれば、人は神の息子、娘となり、究極には天において、神の御前に住むにふさわしい者となるのです。

神の国と主の御業はいよいよ広まり、今までよりも一層その発展の勢いを増すであります。これは主の御言葉であり、「みたま」の証であります。私もその真なることを知り証しするものであります。

神の御国はいよいよ発展して、海外にも広がり、大地に深く根を下ろし、神の御言葉と御力とにより揺ぎなく、崩れることなく、神の目的がすべて達成され、創世以来予言者の口より出たすべての原則が満たされる日まで、存続することでありましょう。これこそ、人知によらず、神御自らが、その知恵によって、この末日に回復し給うたものであり、真理と、正義を、清い生活の基いの上に建てられたのであります。そして、教会員の大多数が自らを世の汚れから清く保つ限り、その御国は、二度と倒れず、また他の者の手に渡ることもないのであります。

神の真理を守らずに、人は長く栄えたためしはありません。

真理は大いにして力あり、この教会の創立以来、人間が教会を導いたことは決してなかったのです。ジョセフ・スミスの時然り、ブリガム・ヤングの時然り、今日もまた然りであります。これは主の御業であり、主がなし給うものであり、決して人が行うものではないことを記憶に刻んで頂きたいと思ひます。

人間はその御業をなすことも、その力も持っていないのです。もしも人の業ならば、世の他の人々となら異なるところはないでありましょう、また、神が我々この世から選ばれたというのはいつわりとなり、却って世の一部となって、

軀を同じくする者となつたでありましょう。しかし、我々は神により、この世から選ばれ、その故に世のものではないのであります。

兄弟姉妹、これをよく憶えて下さい。そして帰宅される時今までにその習慣がなかったり、また義務を怠ったりしたことがあるなら、この勧告を忘れないで頂きたいと思ひます。ひそかな祈りの部屋に入り、自分一人、あるいは家族と共にひざまづき、神をほめたたえ、この御業が初めより今日にいたるまで、あなた方をはじめ、教会の者に賜つた神の慈悲深い御恵みを感謝して頂きたいのです。これは神からの賜であり、我々が成就を目撃したものはすべて神の力と導きによることを記憶して頂きたいと思ひます。それは決して人の知恵によるものではなく、人は主の御手にあつてその目的の達成の道具にすぎず、これは我々が否定し得ないところであります。その道具となつた人々に、その御業の誉を帰することはその人々をお召しになつた神に誉を帰さず、天父に不正を働いていることになるのであります。

神は義によってその業を短かくされ、目的を急がれることがあるが、我々は、主の御業の前進に全力をもって合わせる必要があります。その時、神は守り給ひ、道を備へ給うことでありましょう。

この世代に生を受けたこと、そして、福音の原則をいささか知り得たことを、私は心から天父に感謝するものであります。この真理の証をするという特権をいただき、またこの福音の回復という事実を、全世界で証し出来ることを感謝いたします。私は国々を訪れて伝道し、またこの世の有様を数々見て来ましたが、それにより、聖書にあるような福音は、この世に見出せないことを覚つたのであります。

神の儀式が行われるのは、独り、末日聖徒イエス・キリスト教会のみであります。昔と同じく今も神が生き給ひ御意を人に示し給うと述べる証を、世の人は聞こうとせず、また神の道も学ばず、また歩むこともしないのであります。

これは、主の「みたま」が大いなる力をもつてくだり給ひ「兄弟たちよ、我ら何を為すべきや」と叫んだ人々の心に確信を与へた時、ペテロや使徒たちが示した道なのであります。ペテロは、「悔い改めよ、各々罪のゆるしを得んため、イエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けよ。さらば聖霊の賜をうけん。」(使徒 2:37-38)

この道は彼らに与えられた勧告であり、そしてこれに従う限り、聖霊の証をうけることができ、その結果、それによつて平安と幸福とを得、義務が啓示され、主々の関係がより深く理解されるのであります。

今日の世の状態を見ると、平和の到来がすぐにはないと感ずるに違いありません。それは平和を求めるものが少ないからであります。

全能の主は世の創造主であり、我々すべての霊の父であります。神は我々になすべきことを命ずる権利があり、神の命

令に従ひ、神の求めに従つて歩むのは我々の義務であります。福音が地に回復され、神権が打ち建てられ、世の民に与えられました。世はそれを理解できず、ただ驚きをもつて見守るのみであります。

イエス・キリストが生きて在し、救い主にして贖い主であることを我々は知つています。どんな書物にも証しを求めず、我々のこの証があり、世にそれを証しするのであります。我々は国々に福音を宣べ伝える大いなる業に励んでいますが、これこそ大いにして、輝かしい御業であります。心から神を愛し、隣人を愛するのは正しいと我々は信じております。

これらは福音の原則であり、教会員となつた時から教えられてきました。イエス・キリストの福音は、自由の完全な律法であり、人間を最高の栄光に高めて、天父なる神の御前に挙げるものであります。これは人の導きとして神が立て給ひし者の勧めに聞き従う時に可能となるのであります。

我々は人にとりつくろふようなことはしません。恐れずにこれらの真なることを証しするのであります。神が啓示され給うことにより、我々は神により頼むのであります。我々は暗黒に住まず、知識の源は人間ではなく、実にイエス・キリストの啓示によるのであります。世の愚かさや悪をすて、主の御前にひれふして「みたま」を求め、救い主の御言葉に従ひ、罪の赦しのバプテスマと聖霊の賜のための按手礼を受けて、これらの言葉の真理の証を自らいただくことに何の害がありませんか。

これを、へり下り、かつ正直になせば、主の生きて在ますことと同じようにはっきりし、あなた方はこの御業の証を受けずべての末日聖徒が知るべきことを知るであります。これを私は約束の成就と証できる人々がこの会衆の中にたくさんいることを知つています。この証は神より出ずるものであり、すべて人々に確信が与えられるものですが、それは、いかなるしや賜物よりも価値があるのです。なぜならば証は人に平安と幸福と満足とを与えるものだからであります。

神は生きてましまし、神に忠実であれば、日の光栄の祝福が得られるという証を私ははっきり持つております。

地は清められ、天に住む者にふさわしい住居となり、福千年には主なる我が神が来たり治め賜うのであります。福音は救いであり、福音がなければあらゆる物に価値はありません。これこそ我々が求めるものであり、この現世の目的はすべての愚行を克服して、永遠の生命の備えをなすことであります。

我々が忠実であつて、謙遜であり、イエス・キリストの宗教に生き、肉の弱きを捨て、心を一にして主とその真理より離れず、信仰の良き戦いをなし、終りまで耐え忍ぶことを、しかして神がその力を与へ給はんことを、これらをイエス・キリストの御名により申しあげます。アーメン。

米国の行く末は宗教であって政治ではない

(1968年10月6日午前 第138回教会半期総大会における
大管長会アルビン R. ダイヤー副管長の説教)

アルビン R. ダイヤー

私は米国の行く末についてお話しいたします。

建国以来、米国の政治指導者たちは、米国の偉大さを、自由と民主主義を育成し、世界にこれらの原則を広める使命をもった地としての、世界における地位を世界に述べて来ました。

我々は、米国のこれらの様々な試みを目のあたりに見てきましたが、その高価で困難な経験の結果学んだことは、自由はいかなる国民に与え得るものでもなく、買えるものでもないということでありました。建国の父たちと同じく、自由は勇気と犠牲とをもって求めるべきであり、このような努力無くしては、米国内での自由の維持はおろか、それを他に伝えることも不可能であることを将来にわたっても学ばねばならないのであります。

政治上の米国の行く末について私は述べるつもりはありません。しかし私が知っているのは、コロンブスの船が故国の岸を離れるはるか以前、また建国の父たちの独立のはるか以前に、この米国と呼ばれる土地に様々なことが起り、その目的と運命を教えたということでありました。

米国の行く末は政治上のものではなく、宗教上のもの、すなわち物質的ではなく、霊的なものであると強く確信しております。

米国建国については多くの説があります。予言者ジョセフ・スミスによれば、合衆国憲法は天からの靈感によるものであり、この故に我々は、この憲法が立派に永続する様に祈るのであります。憲法制定の政治的意義は高貴かつ重大なものでありますが、真の意義はその本来の目的である霊的な目的にあります。この霊的なまた神の意図された理由を二つ挙げてみましょう。

第一に、古のイスラエル家の族長たちに神がなされた契約の成就のために米国は打ち立てられました。主はこの地に生き帰ったイスラエル家の民に次のように仰せになりました。

「御父がその民なるイスラエルの家に立てたまいし誓約が行なわれるために、また異邦人を経て以上のことが汝らの子孫に伝わるために、異邦人がこの地に置かれて御父の能力によりて自由の国民となることは御父のみこころなるが故に」

(Ⅲ ニーフアイ 21:4)

第二に米国とその憲法は、神が人間に与え給うた道徳的良心の権利を保持するために制定された。これについてジョセフ・スミスに与えられた啓示を引用しましょう。

「すなわち、わが彼らに制定を許したる、また正しく且つ神聖なる原則によりてあらゆる人々の権利と保護とを守るために維持すべき人民の律法と憲法とに従いて、汝らの上に権威を持つ者に切に願ひ、かくして人ごとくわれより与えられたる良心に従ひ、未来に関する教義と原理とに適う行な

いを為し、かくて審判の日に至りて自己の罪を負うべきなり。故に何人も相互に束縛するは正しきにあらず、われ実はこの目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりてこの国の憲法を制定せしめ、流血によりてこの国を贖えり。」

(教義と聖約 101:77~80)

コロンブスがこの地に発見した民は、昔、神に導かれてここへ来た民の今や衰えた生き残りでありました。そして彼らのアメリカ大陸への移住は、そのはるか昔、神が立て給ひし約束の受け嗣ぐべき地として宣べられた契約の成就でした。

モルモン経によると、ジェレド人のアメリカ大陸移住はバベルの塔建築当時のことでありました。すなわち、紀元前2,200年頃のことであり、この頃人々の言語は乱れたのでした。このバベルの塔は、ユーフラテス川の東、現在のイラクのバグダッドの近くのヒラという地にあったと云われています。ここにビルス・ニムルドと呼ばれる廃虚が、大平原の給水塔の如く立っています。ピラミッド状のこの廃虚に刻まれた文字は「七つの星の神殿」という名を表すとローリンソンは述べております。この廃虚こそバベルの塔の名残りであるといわれております。

ジェレド人は旅の途上、まず北のニムルドの谷に向ひ、それから多くの湖と川を渡って遂に大陸を分けへだてる大海に到達し、そこで、偉大なる指導者ジェレドの兄弟に因んでモリアンキュメルという町を建てました。(イテル2:1~6)

主が約束の地へ一行を導くため潜水可能な船の建造をジェレドの兄弟に御教えになりましたが、これについてモリアンキュメルは次の様に書いています。

「これで約束の地について神が定めたもうたことが明らかに知れる。すなわち、この地は約束の地であるから、およそこの地を所有する民は神に仕えなくてはならぬ。もし仕えなければ、神の烈しい怒りを受けて亡びる時はすなわち民の罪悪が極度に達する時である。この地はすべてのほかの地よりも勝っている地であるから、この地を所有する者が神に仕えない時に亡びてしまうことは神がとこしえに定めたもうたところである。

(イテル 2:9~10)

およそ1,600年後、すなわち紀元前600年、予言者リーハイが家族と共に、神の導きのもとに、滅びる運命にあったエルサレムを離れました。幾世紀も前のジェレド人と同じくリーハイの一行も約束の地に導かれたのでした。船出する前荒野の中でリーハイの子ニーフアイに主は仰せになりました。

「汝わが命令を守らば、われは汝を栄えさせ、約束の地に導くべし。まことにこは、汝のために備えたる土地にして、まったくいかなる土地もはるかに及ばざるほど優れたる土地なり。」

(1 ニーフアイ 2:20)



主の命で造った船で大海を渡り、多くの苦難を終て、遂にリーハイとその一行が、イスラエル出発後、人数を増して、約束の地に着いたのはおそらく紀元前589年のことであります。後にリーハイは次のごとく述べています。

「しかし、私たちはいろいろの艱難に逢ったにもかかわらず、今や約束の地を手に入れている。これはまことにあらゆるほかの土地に勝って優れた土地であって、主なる神が私の子孫の受け嗣ぐべき土地である。まことに主はこの土地を、私と私の子孫とまた主の御手に導かれてほかの国々からここにくるあらゆる人々とに永久に下さると誓約をなしたもうた。」
(Ⅱ ニーフアイ 1:5)

欧州や英国で宗教改革、そして自由運動が勢いを増して来ていた頃、米大陸再発見の機が熟しつつありました。すなわち、主はクリストファ・コロンブスという船乗りの心に触れ給い、コロンブスは1492年に約束の地に向って、航路の開拓を試みたのです。しかし、彼コロンブスも、ニーフアイ人もジェレド人も最初の発見者ではなく、また米国の行く手を定めたわけでもありませんでした。これは地球に人が住み初めた時に定まっていたのであり、これらの移住は人類の発祥の地に向って導かれたのでした。

復活後キリストはユダヤ人の中で伝道を終えられてから、このアメリカの地に、別の羊の群を訪れ、その民の中に教会を建てられました。米国の建設と、その地に住むニーフアイ人の子孫の残りとしてすべての神の子に福音が伝えられること、それが霊的暗黒時代の後に起こるべき事をお話しになりました。

「まことに汝らに告ぐ、これらのことの成就せんとするとき、すなわち、われわが民なるイスラエルの家をその長く散らされたる有様より救いてこれを集め、またその中にわがシオンを建設せんとする時を汝らに知らしめんために、われは汝らにしるしを示さん。」
(Ⅲ ニーフアイ 21:1)

地の隅々より、集合するイスラエル家の民の受け嗣ぐべき地はアメリカであると主は次のように仰せになりました。

「その時になりて、世界のここかしこに散らされたるイスラエルの家の残りの子孫たちは東西南北より集められ、かれらを贖いたまいしその神なる主を知るに至るべし。

われがこの地を汝らに与えて汝らの受け嗣ぎの地となすは御父の命令なり。またわれがこの地に居る民の先祖なるヤコブと結びし誓約をことごとく果たすため、汝らの子孫をしてこの地を治むる者としていつまでも住まわせこの地を新エルサレムとなさん」
(Ⅲ ニーフアイ 20:13, 14, 22)

北米、中米、南米のアメリカ大陸が「すぐれたる土地」「奉獻された土地」であることを理解するためには、もう少し初めにさかのぼらねばなりません。人間がこの世界に置かれた時のことを書いているモーセの言葉に、

「われ神、エデンの東の方に一つの園を設けてわが造りし人をそこに置きたり。」(モーセ 3:8)とあります。

人が一人で行くのはよくないので、神は助け手として女をお造りになりました。そして二人がこの様にして設けられた園に住むことになったのです。エデンの園の正体や所在について、思い起こすべきことは、天地創造の第三日に水が一カ所に集められ、乾いた土地が一カ所に現われたということにあります。この土地が陸と呼ばれ水が海と呼ばれました。

この陸に与えられたもう一つの名がエデンであり、人類最初の二人が置かれた園はその東の方にありました。天地創造の時から、下って、言語が乱される直前ペレグの時代に、それまで一つであった陸は分割されて、現在の様に半球になりました。にもかかわらず、予言者ジョセフ・スミスはこのエデンの園の位置を、啓示によって、ミズリー州ジャクソン郡のインデペンデンスを中心とすると知らされていました。

エデンの園を追われたアダムとイブは北方へ100マイル程

旅して、神の啓示によりアダム・オンダイ・アーマンとして知られる土地に定着しました。ここで、二人には、男女の子供が生まれて、地上初の家族生活が始まりました。これはすべて、ここアメリカでの出来事であったのです。

神の御前からしりぞけられたアダムとイブは、住家を定めてから、神に呼び求め、そして、いけにえとして羊の初子を祭だんで神に捧げることを教えられて、理由は判らなくともそれを忠実に守ったのでした。それから、主の天使が現われて、やがて定められた時に来るべきキリストのいけにえにかたどったものであると教えました。その後救いと昇栄の計画により自分たちが追放された父なる神の御前にゆるされるのが、人類史上初めて知らされたのでした。

神の御子の聖なる神権は、「福音を行い、天国のすべての鍵、すなわち、神を知る鍵を持つ」のですが、これは先ずアダムに与えられたが故に、この大いなる祖先に「救いの鍵」が与えられたのです。主、すなわちアーマンは、アダムとイブに彼らがこの様にして落ちて肉体的、霊的死をうける者とはなったが、時来たりて贖われ、父なる神の御許に戻るべきことをお知らせになったのです。

救いの鍵を与えるに際し、救いの諸条件がアダムとイブに知らされ、そして人類に伝えられました。ここでアダム・オンダイ・アーマンの真の意味がわかります。すなわち、主（アーマン）より、アダムを通じて（オンダイ）人類へということであります。

先に述べた聖句をまた引用しますと、ここで主は、アダム（前世の名はミカエル）に救いの条件をお示しになり、それらが与えられた目的を明らかにされました。

「また汝らが来たりて汝らのために備えられたる冠を得て多くの王国の統治者とせられんためなり、かくの如く、アダム・オンダイ・アーマンの礎を建てたる『シオンの聖者』なる主なる神言う」

「この神は、すなわちミカエルを汝の君に任命したその両脚を固うし、高き位に彼を置きて、生命の始めなく齡の終りなき『聖者』の御旨と導きとの下に救いの鍵を与えし神なり」（教義と聖約 78：15, 16）

「…そは全くして欠くることなき完全なる合一とまた神権の時代と、鍵と、権能と、光栄との固き結合出来て、これがアダムの時代より現在に至るまでことごとく明らかにさること、今やまさに先触れを始めんとする時満ちたる神権の時代の先駆をなすに必要なればなり。」（教義と聖約 128：18）

この啓示に照らしてみると、末日聖徒がなぜアダム・オンダイ・アーマンに定着したか、また、直接の関係をもつため人類が現世で生活するに重要なこの地点が、イエス・キリストの回復された福音の真理と救いの儀式を宣べ伝えるべくつかわされた者により、世界に証しされるということは容易に理解できることです。

我々はジョセフ・スミスに与えられた啓示によりこのアダム・オンダイ・アーマンの谷での出来事を知らされています。

「アダム死なんとする三年前に当り、すべて大祭司たりしセツ、イノス、カイナン、マハラリール、ジュレド、エノクメッセラおよびその他の義しかりし彼の子孫らを、アダム・オンダイ・アーマンの谷に呼び、その処にて最後の祝福を授けたり。その時主彼らに現われたもう。彼ら皆立上りてアダムを祝福し、彼をミカエル、王の君、また天使の長と呼べり、また主、アダムに慰めを施して言いたまわく、われ汝を立てて首長となす。諸々の民は汝より出で来たり、汝は永遠にその君たるべしと。その時アダム会衆の中に立ち上り、齡長けてすでに弓張の腰となりたるも聖霊に満たされ、何事にて最も後の代に至るまでその子孫の上に起こるべき事を予言せり。すべてこれらはエノクの書に誌されれば、後に時到りて証せらるべし。」（教義と聖約 107：53～57）

アダムと義なる彼の子孫の一族の会合の行なわれたのは紀元前3,177年のことであります。これらの簡単な説明から米大陸が何故すべての土地に勝った約束の地なのか、判るでありましょう。人間が初めて住んだ土地は、そして聖約が確立されたのはこのアメリカの地でありました。そして、完成に向いつつある主の末日の事業の発祥は、この「選ばれた土地」を中心としたのでした。

主が定め給うた時に、陸と海とが初めの位置に戻ることは興味深いことであります。

主は次のようにのたまっています。

「彼はシオンより声を出し、エルサレムより語り、その声あらゆる人々の中に聞ゆべし。またその声、多くの河の響、大いなるいかづちの響の如くにして、その響は山々を崩し谷々を埋むべし。彼はいと深き淵に命じて北方の国々に退かしめ島々をして一つの地にならしめん。而してエルサレムの地とシオンの地とは旧の所に復り、地球はいまだ分れざりし前の時代の如くにあらん。而して主すなわち救い主は、その民の唯中に立ちて一切の生くる者を支配すべし。」

（教義と聖約 133：21～25）

シオンとしてのアメリカは倒れることはありません。他に勝った地であり、シオン建設の中心地であるアメリカは、倒れることがないのです。

輝かしい独立と立憲の父祖のためのみならず、それはまたヤコブの子ヨセフの地であり、神の契約によってかく定められたがために倒れることはないのです。予言者ジョセフ、スミスを通じて神殿が建てられた、この最後の神権時代の最高の時期に行なわれるイスラエルの集合の地でもあります。

シオンとしてのアメリカの目的を達成するために、主はこのような仰せになっています。

。「されどまずわが軍をして甚だ大いなるものとなし、わが前に聖きものとならしむべし。かくして、明らかなること日の如く、清らかなること月の如く、万国の民をしてその旗を怖れしむべし。」（教義と聖約 105：31）

これらの予言の成就を主イエス・キリストの御名により、証し申しあげます。アーメン。

あけましておめでとうございます



日本沖縄伝道部 岡崎伝道部長ご家族



日本伝道部 ビルス伝道部長ご家族

謹んで

新年の御挨拶を

申し上げます

一月一日

沖繩地方部

地方部長

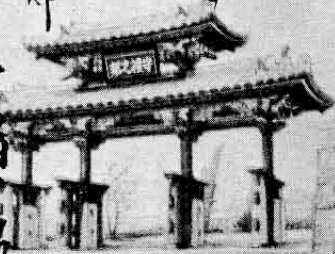
長 嶺 貞正

第一副

大城 朝次郎

第二副

屋 富 祖 昭



署記 石井英一



一九六九年 元旦

明けまして

おめでとうございます。

万國博を目標に

心をこめて努力をたくし

思いをつくり 体力をたくして

神の役務をおこなす決心

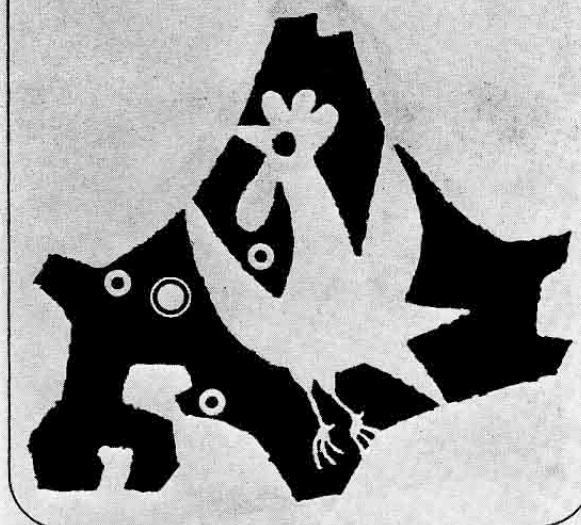
をこめよう。

今年もはげしく御指導

御鞭撻を心からお願い致します。

おんがらおんがら

謹賀新年



新支部が日本の各地に設けられ
完全なプログラムを実施すること
を強く期待される年であります。
主の王国発展のために更に助け
合い頑張りましょう。

北海道地方部長

柳 沢 俊 雄

カット 札幌支部 酒 巻 俊 二

謹賀新年

昨年はいよいよ教会幹部の来日
があり恵り多き一年でした。

松達は本年も主の御業にカーン

い働きましよう。

東中央地方部長会 相倉 仁

丸山 周 兵

佐倉 井 正 彦

一九六九年 元旦

新伝道地開かれる

日本伝道部

青森市・八戸市(青森)・盛岡市(岩手)・郡山市(福島)・前橋市(群馬)・静岡市・浜松市(静岡)の七都市に伝道が開始された。11月下旬から12月上旬にかけて、最初の宣教師がこれらの都市へ旅立つた。

伸びゆく伝道活動を喜び、働く長老たちの上に主の豊かな導きがありますようお祈りします。

その日、イエス・キリストを啓示するために彼らの上に注がる「慰め主」の施したもうによりてこの能力を授けられた者たちの口より、あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん。(教義と聖約90章11節)

宣教師

青森	マーシュ・グアー長老 グリーグ・タグト長老
八戸	デル・デビス長老 ギャリー・アレン長老
盛岡	ロバート・アレン長老 ジェームズ・ハバセン長老
郡山	ジェームズ・G・クラウソン長老 ミッチェル・トンプソン長老
前橋	ラリー・R・デュナン長老 A・ルウエレン・スミス長老
静岡	ロバート・ジョンズ長老 ギャリー・リー長老
浜松	ウィリアム・リーグ長老 ニール・コクス長老



献堂を待つ岡町支部

67年12月16日のくわ入れ式から約一年、岡町支部の建築は進み、写真のように素晴らしい教会堂を築きあげた。

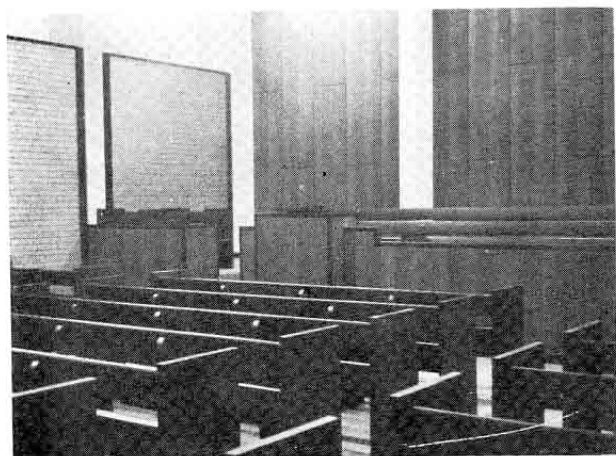
ラーセン監督を中心に、各地から集った建築宣教師、岡町支部、関西地区の会員たちの力によって、この建物ができあがった。人々の信仰と証詞はさらに強まり、関西の地に主の業が大きく展開されることと確信します。



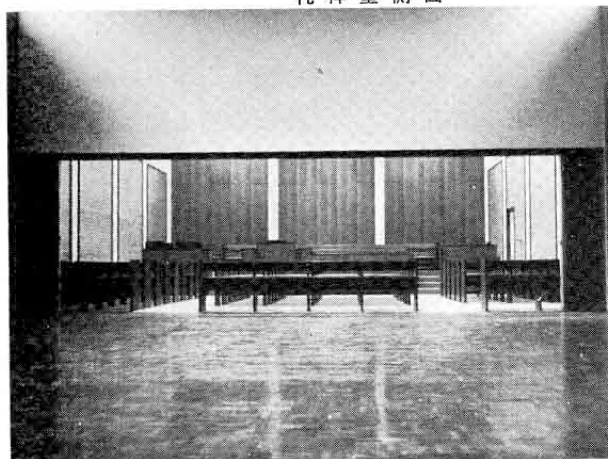
教会堂玄関



礼拝堂側面



礼拝堂内部



レクリエーションホールと礼拝堂



教室入口



ベンソン長老ご夫妻を迎えてラーセン監督と建築宣教師

支部所在地

近畿地方部

- 京 都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-701-4067) 郵便番号606
- 阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315) 郵便番号545
- 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141) 郵便番号662
- 岡 町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236) 郵便番号560
- 岡 山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560) 郵便番号700
- 神 戸 神戸市灘区篠原本町4-6-28
電話 (078-86-2602) 郵便番号657
- 高 松 香川県高松市末広町1-8
電話 (0878-51-4708) 郵便番号760

中部地方部

- 金 沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131) 郵便番号920
- 名 古 屋 名古屋市昭和区北山町3-14
電話 (052-731-4210) 郵便番号466

西地方部

- 広 島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309) 郵便番号733
- 柳 井 山口県柳井市今市391
電話 (106申込柳井7) 郵便番号742
- 福 岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653) 郵便番号810
- 北 九 州 北九州市小倉区大字砂津日之出町340-6
電話 (093-55-4659) 郵便番号802
- 熊 本 熊本市東寺原町64-42
電話 (093-54-9017) 郵便番号860
- 長 崎 長崎市片淵町2-7-17
電話 (0958-22-5726) 郵便番号852

沖縄地方部

- 普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区328
- 那 覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)

北海道地方部

- 旭 川 旭川市8条5丁目
電話 (0166-25-1545) 郵便番号070
MIA集会所 旭川公会堂
- 室 蘭 室蘭市幸町12-9
電話 (0143-2-7054) 郵便番号051
- 小 樽 小樽市富岡町1-5-23
電話 (0134-2-8224) 郵便番号047
- 札 幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175) 郵便番号060



新伝道地(○)印

- 青 森
八 戸
郡 盛岡
前 山
静 橋
浜 岡
岐 松
阜 卓
佐 世
保

東中央地方部

- 福 島 福島市渡利字小久保8-7
電話 (02452-23-5313) 郵便番号960
- 群 馬 高崎市並榎町275
電話 (0273-22-7121) 郵便番号370
- 甲 府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-33-2409) 郵便番号400
- 松 本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093) 郵便番号390
- 新 潟 新潟市明石2-2-5
電話 (47-7712) 郵便番号950
- 仙 台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897) 郵便番号980
- 東京中央 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307) 郵便番号107
- 東京北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244) 郵便番号165
- 東京東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310) 郵便番号133
- 東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311) 郵便番号145
- 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-6764) 郵便番号180
- 山 形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380) 郵便番号990
- 横 浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772) 郵便番号222

スポークン ワード

リチャード・L・エバンズ

結婚とは結婚式以上のものである

ウィリアム・ライアン・フェルプスが次のように言っている。「私の教え子の一人が婚約を知らせる手紙で次のように書いてきた。『盛大な結婚式にしようとは思いませんが、素晴らしい結婚にしようと思っています』」これはしばしば見落されがちな簡明な事実を物語っている。——結婚とは結婚式以上のもの、はるかにそれ以上のものであると言う事である。直視しなければならない主要な事実とは次のことである。つまり結婚は、毎日の、正に一日一日の義務、日課、責任からなり立っているものであり、さらにまた、結婚とは二人の不完全な人間の関係であって、その関係は人格、忠実さ、常識、共通の信念を必要としている。さらに加えて己れを捧げ、長い目で結婚を成功させようとするゆるぎない努力をも必要とする。「二人で共に幸福に生活しようとする技術はおそらく、すべての芸術のうちでも最たるもののひとつである。」「²「当然、……あらゆるたぐいの調整が必要とされる。」「¹「口論や議論は当然起ってくる。しかし、大事なことはそれを持続させないことである。」「²とフェルプス博士は言った。またテンプル・ベイリーは結婚について次のように述べている。「結婚とは、二人の異なった人格が一つの目的に向って努力することである。……結婚した二人が、違った星を見つめ合っているには幸福は得られない。……二人は一つの理想を立て、それに向って努力せねばならぬ。……不可能な未来について不可能な空想をいまくことはやめよ。夢のうちで最良のものを選び、毎日それが実現するよう生活の中にかされよ。」「³「離婚は失敗である。」「最良の目標は結婚それ自体を成功させることにある。」「⁴とある著名な大家が述べた。すべてのことをこころみよう。そして結婚とは二人の不完全な人間の関係であること、またその関係は、人格、忠実、ユーモア、共通の信念、常識を必要とするものであり、さらに利己主義を捨てて己れを捧げ、長い目で結婚を成功させようとするゆるぎない努力をも必要とすることを覚えよう。結婚は結婚式以上のものである。「結婚は、あなた次第ですばらしいもの、神聖なものとなる」

1. ウィリアム・ライアン・フェルプス博士が著者不明の書から引用したもの
2. ウィリアム・ライアン・フェルプス博士著「結婚はあなたしだい」デリニーター、1932年8月
3. テンプル・ベイリー「夢を実現する花嫁」レディズ・ホーム・ジャーナル1912年6月号
4. ポール・ボープノー「結婚で協力しあいなさい」レディズ・ホーム・ジャーナル。1942年6月号

F E N 放送で毎日曜日 8:05 ~ 8:30a.m
まで、スポークン ワードとタバナクル
コーラスが放送されています。

聖徒の道

1969年1月20日発行

振替口座 東京 76226番

発行人兼編集人 ウォルター R. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間 1,000円 (外国4ドル50セント)

電報受信略号 「トウキョウ」 マツジツ